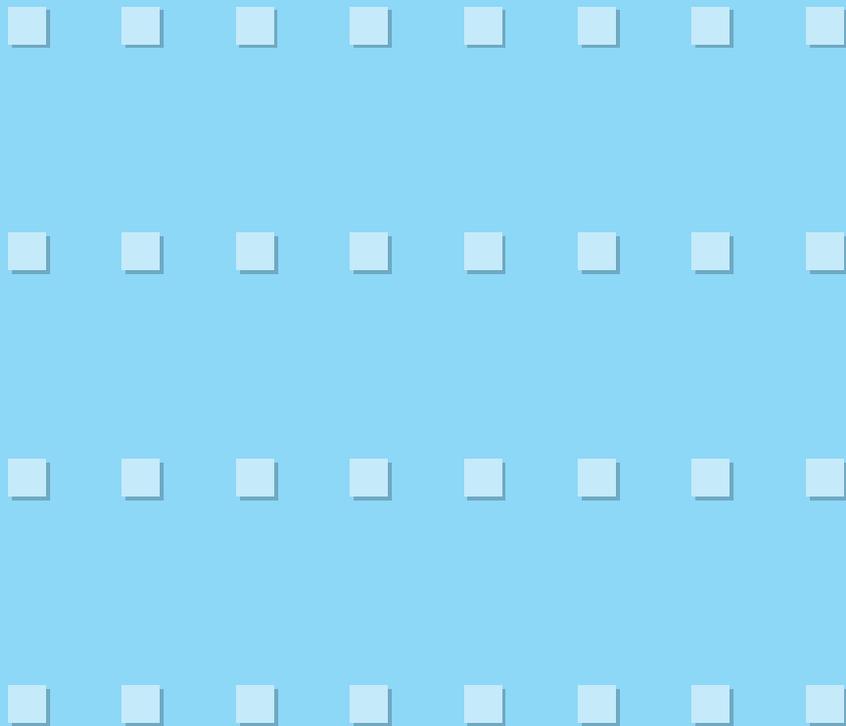


VII

『学習のしおり2014』より再掲（参考）

2013年度からの 変更点について

（対象：2012年度以前入学者）



1

2013年4月からのカリキュラム変更・各種制度の変更について

2013年4月からカリキュラム・各種制度を変更しています。これに伴い、一部の科目を新しいカリキュラムの科目に読替えます。また、変更にあたり経過措置を設ける場合があります。変更等の内容は、P.128以降を参照してください。

これらの科目読替え・制度変更は、特に記載があるものを除いて、前期生・後期生を問わず、通信教育部に在籍する全ての方を対象に、2013年4月から適用されています。2013年4月以降に復籍・再入学された方も新しいカリキュラムが適用され、復籍・再入学前に単位を修得した科目を読替える場合があります。

なお、ここに掲載する内容は、これまでに『2013年4月大きく変わる法政大学通信教育部～カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置等について（お知らせ）～』等でお知らせしたものをまとめたものです。

また、2013年4月からのメディアスクーリングの拡充をはじめとした各種制度の変更については、次頁を参照してください。

●各種制度の変更の概要

項 目	変更の概要
メディアスクーリングの拡充・開講形態の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアスクーリングの科目数の増加（2013年度から5カ年計画） ・市ヶ谷キャンパスでの最終講義・最終試験の廃止 （試験は「メディアスクーリング試験」又は「レポート試験」として実施）
卒業論文に関する変更 ※2014年3月卒業から	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業要件を充足した場合は、本人の意思にかかわらず卒業〈法・経済学部〉 （ただし、年度途中で卒業する場合は申請が必要） ・「卒業申請」手続の廃止〈全学部〉
年間履修単位数の上限の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・年間履修単位：49単位まで（2012年度までは40単位） ※教職・資格科目履修時は、合計60単位まで ・年間スクーリング登録単位：49単位まで（2012年度までは36単位） ※49単位には教職・資格科目を含む
スクーリングの変更	<ul style="list-style-type: none"> ・週末スクーリングの拡大 ・ゴールデンウィーク（GW）スクーリングの新設 ・地方スクーリングの開講場所の変更（札幌・仙台・名古屋・大阪・福岡）
学習フォロー体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・通信学習のシラバスの作成・公表
レポート提出の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の同一科目・設題の提出回数：3回まで ・年間のレポート受付回数：12回（2012年度までは15回）
単位修得試験の変更	<ul style="list-style-type: none"> ・試験結果が不合格の場合のみ同一科目の再受験が可能 （ただし、試験結果が判明しない場合は再受験が可能） ・試験に欠席した場合は次回以降の受験が可能 ・試験範囲の事前公表（適切と判断した科目のみ）
在学年限（12年）の見直し	<p>〈2002年度以前入学者、2003年度2・3年次編入学者、2004年度3年次編入学者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度以降に「卒業計画書」の提出 ・在籍期間は最長2026年度末まで <p>〈2003年度以降入学者〉（2003年度2・3年次編入学者、2004年度3年次編入学者を除く）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「再度の入学」制度の導入 ・「再度の入学」後の在学期間は、休学期間を除き12年
スクーリング受講料の改定	<ul style="list-style-type: none"> ・メディア：1科目20,000円（2012年度までは30,000円） ・春・夏・秋・冬期、週末、（GW）：1科目15,000円（2012年度までは10,000円） ※地方スクーリングは据え置き（1科目20,000円）

(1) 教養課程 (一般教育科目、外国語及び保健体育科目)

《2013年4月から》

一般教育	36単位以上
人文分野	2科目8単位以上
社会分野	8単位以上
自然分野	4科目8単位以上
基礎特講	最大4単位まで
放送大学単位認定科目	最大10単位まで
外国語	1外国語4単位 (うちスクーリング2単位以上)
保健体育	2単位
合計	42単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
			人文分野			
	○		文学	4	1	} 2科目8単位以上 必修
	○		西洋史	4	1	
	○		日本史	4	1	
	○		哲学	4	1	
	○		東洋史	4	1	
	○		論理学	4	1	
			社会分野			
	○		法学 (日本国憲法)	2	1	} 8単位以上 必修
	○		法学	2	1	
	○		経済学	4	1	
	○		人文地理学	4	1	
	○		自然地理学	4	1	
	○		政治学概論	4	1	
	○		社会学	4	1	
	○		文化人類学	4	1	
	○		心理学	4	1	
			自然分野			
	○		数学1	2	1	} 4科目8単位以上 必修
	○		数学2	2	1	
	○		数学3	2	1	
	○		生物学1	2	1	
	○		生物学2	2	1	
	○		生物学3	2	1	
	○		化学1	2	1	
	○		化学2	2	1	
	○		化学3	2	1	
	○		物理学1	2	1	
	○		物理学2	2	1	
	○		物理学3	2	1	
		○	基礎特講	2	1	
			放送大学単位認定科目			最大10単位まで
			外国語科目			
	○		英語2	2	1	} いずれか 1外国語4単位 (うちスク2単位以上) 必修
	○		英語3	2	1	
	○		英語S	1×2	1	
	○		独語1	2	1	
	○		独語S	1×2	1	
	○		仏語1	2	1	
	○		仏語S	1×2	1	
			保健体育科目			
	○		健康・スポーツ科学概論	2	1	} いずれか 1科目2単位
	○		スポーツ総合演習	2	1	

※2013年3月末で廃止：地理学、自然科学史 (2013年4月以降経過措置あり)

※地理学を履修途中・修得済の場合、人文地理学、自然地理学を履修することはできません。

《2013年3月まで》

一般教育 36単位以上

人文分野	2科目8単位以上
社会分野	2科目8単位以上
自然分野	2科目8単位以上
基礎特講	最大4単位まで
放送大学単位認定科目	最大10単位まで
外国語	1外国語4単位（うちスクーリング2単位以上）
保健体育	2単位
合計	42単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
			人文分野			
	○		文学	4	1	} 2科目8単位以上 必修
	○		歴史Ⅰ（西洋史）	4	1	
	○		歴史Ⅱ（日本史）	4	1	
	○		哲学	4	1	
	○		心理学	4	1	
			社会分野			
	○		法学（日本国憲法2単位含む）	4	1	} 2科目8単位以上 必修
	○		経済学	4	1	
	○		地理学	4	1	
	○		政治学概論	4	1	
	○		社会学	4	1	
	○		文化人類学	4	1	
			自然分野			
	○		数学	4	1	} 2科目8単位以上 必修
	○		生物学	4	1	
	○		化学	4	1	
	○		物理学	4	1	
	○		自然科学史	4	1	
		○	基礎特講	2	1	4単位まで履修可
			放送大学単位認定科目			最大10単位まで
			外国語科目			
	○		英語2	2	1	} いずれか 1外国語4単位 (うちスク2単位以上) 必修
	○		英語3	2	1	
	○		英語S	1×2	1	
	○		独語1	2	1	
	○		独語S	1×2	1	
	○		仏語1	2	1	
	○		仏語S	1×2	1	
			保健体育科目			
	○		健康・スポーツ科学概論	2	1	} いずれか 1科目2単位
	○		スポーツ総合演習	2	1	

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（一般教育科目、外国語及び保健体育科目）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選択	選択								
人文分野（分野で2科目8単位必修）										
	○		文 学	4	1	※変更なし	-	-	-	-
	○		歴史Ⅰ （西洋史）	4	1	「西洋史」に名称変更する	変更なし （「歴史Ⅰ（西洋史）」を修得したものとする）	「西洋史」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「西洋史」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○		歴史Ⅱ （日本史）	4	1	「日本史」に名称変更する	変更なし （「歴史Ⅱ（日本史）」を修得したものとする）	「日本史」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本史」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○		哲 学	4	1	※変更なし	-	-	-	-
	○		心 理 学	4	1	社会分野に分野変更する	変更なし （人文分野の科目として取扱う）	2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限り）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける ①2015年3月31日（2014年度の最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は、変更なし（人文分野の科目として取扱う） ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ②2015年3月31日（2014年度の最終の単位修得試験日・レポート提出日）4単位修得しなかった場合は、2015年4月1日以降、社会分野の科目として取扱う（学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる）	社会分野の科目として履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、離籍（除籍又は退学）前に修得した単位を社会分野の科目で修得した単位として取扱う

社会分野（分野で8単位必修）

○	法学 (日本国憲法 2単位含む)	4	1	2単位科目(「法学 (日本国憲法)」「法 学」)に変更する	変更なし (「法学(日本国憲法 2単位含む)」を修得 したものとす)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートにつ いては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設 題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、 《2年間の経過措置》(2015年3月31日まで)を設ける ①スクーリングで2単位修得済の場合 経過措置期間は、以下の学習を行うことができる ・「法学(日本国憲法2単位含む)」のレポート提出 ・「法学(日本国憲法2単位含む)」の単位修得試験 受験 ・「法学(日本国憲法)」のスクーリング受講 経過措置期間終了日までに、上記に合格し2単位 修得した場合、修得済の2単位と合計して「法学 (日本国憲法2単位含む)」4単位修得とする 経過措置期間終了日までに、2単位修得できない 場合、2015年4月1日付で、修得済の2単位の科目 を「法学」に読替える(履修途中の学習履歴がある 場合はその履歴を無効にする) ②4単位を通信学習で履修途中の場合 経過措置期間は、「法学(日本国憲法2単位含む)」 のレポート提出及び単位修得試験ができる 経過措置期間終了日までに、4単位修得した場 合は有効(「法学(日本国憲法2単位含む)」4単位を 修得したものとす) 経過措置期間終了日までに、4単位修得しなかつ た場合は、学習履歴を無効にする	「法学(日本国憲法)」「 法学」を履修する	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降も、左記のと おり取扱う
○	経済学	4	1	※変更なし	-	-	-	-
○	地理学	4	1	科目を廃止する	変更なし (「地理学」を修得し たものとす)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートにつ いては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設 題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、 《2年間の経過措置》(2015年3月31日まで)を設ける ①2015年3月31日までに4単位修得した場合は、有効 とする(「地理学」4単位を修得したものとす) ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最 終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日) までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単 位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	新規履修はできない	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のと おり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
	○		政治学概論	4	1	※変更なし	-	-	-	-
	○		社会学	4	1	※変更なし	-	-	-	-
	○		文化人類学	4	1	※変更なし	-	-	-	-
自然分野（分野で8単位必修）										
	○		数 学	4	1	2単位科目に変更する 変更なし 〔「数学」を修得したものとする〕	2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける ①スクーリングで2単位修得済の場合 経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目（数学1・数学2・数学3）を2単位を修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目（数学）4単位修得と読替える（その際、新カリキュラムの学習履歴は消え、再度互換科目を履修することも可能となる） 経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目の単位が修得できない場合、2015年4月1日付で、新カリキュラムの読替え科目（数学3）の2単位として読替える（その場合、読替え科目の学習履歴も発生し、その後、数学3の重複受講はできない） ②4単位を通信学習で履修途中の場合又はスクーリングで2単位修得した後の残り2単位分を通信学習で履修途中の場合 経過措置期間に、レポート提出及び単位修得試験受験ができるレポート・単位修得試験に合格した場合は、4単位又は2単位修得したものとする 経過措置期間終了日までに4単位又は2単位修得できなかった場合は、学習履歴を無効とする	「数学1」「数学2」「数学3」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う	

○	生物学	4	1	2単位科目に変更する	<p>変更なし (「生物学」を修得したものとす)</p>	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、《2年間の経過措置》(2015年3月31日まで)を設ける</p> <p>①スクーリングで2単位修得済の場合 経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目(生物学1・生物学2・生物学3)を2単位を修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目(生物学)4単位修得と読替える(その際、新カリキュラムの学習履歴は消え、再度互換科目を履修することも可能となる)</p> <p>経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目の単位が修得できない場合、2015年4月1日付で、新カリキュラムの読替え科目(生物学3)の2単位として読替える(その場合、読替え科目の学習履歴も発生し、その後、生物学3の重複受講はできない)</p> <p>②4単位を通信学習で履修途中の場合又はスクーリングで2単位修得した後の残り2単位分を通信学習で履修途中の場合 経過措置期間に、レポート提出及び単位修得試験受験ができるレポート・単位修得試験に合格した場合は、4単位又は2単位修得したものとす 経過措置期間終了日までに4単位又は2単位修得できなかった場合は、学習履歴を無効とする</p>	<p>「生物学1」「生物学2」「生物学3」を履修する</p>	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う</p>
---	-----	---	---	------------	---	---	--------------------------------	---

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
	○		化学	4	1	2単位科目に変更する	変更なし （「化学」を修得したものとする）	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける</p> <p>①スクーリングで2単位修得済の場合 経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目（化学1・化学2・化学3）を2単位を修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目（化学）4単位修得と読替える（その際、新カリキュラムの学習履歴は消え、再度互換科目を履修することも可能となる） 経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目の単位が修得できない場合、2015年4月1日付で、新カリキュラムの読替え科目（化学3）の2単位として読替える（その場合、読替え科目の学習履歴も発生し、その後、化学3の重複受講はできない）</p> <p>②4単位を通信学習で履修途中の場合又はスクーリングで2単位修得した後の残り2単位分を通信学習で履修途中の場合 経過措置期間に、レポート提出及び単位修得試験受験ができるレポート・単位修得試験に合格した場合は、4単位又は2単位修得したものとする 経過措置期間終了日までに4単位又は2単位修得できなかった場合は、学習履歴を無効とする</p>	「化学1」「化学2」「化学3」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

○	物理学	4	1	2単位科目に変更する	変更なし 〔「物理学」を修得した ものとする〕	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける</p> <p>①スクーリングで2単位修得済の場合 経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目（物理学1・物理学2・物理学3）を2単位を修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目（物理学）4単位修得と読替える（その際、新カリキュラムの学習履歴は消え、再度互換科目を履修することも可能となる） 経過措置期間終了日までに、新カリキュラムの互換科目の単位が修得できない場合、2015年4月1日付で、新カリキュラムの読替え科目（物理学2）の2単位として読替える（その場合、読替え科目の学習履歴も発生し、その後、物理学2の重複受講はできない）</p> <p>②4単位を通信学習で履修途中の場合又はスクーリングで2単位修得した後の残り2単位分を通信学習で履修途中の場合 経過措置期間に、レポート提出及び単位修得試験受験ができるレポート・単位修得試験に合格した場合は、4単位又は2単位修得したものとする 経過措置期間終了日までに4単位又は2単位修得できなかった場合は、学習履歴を無効とする</p>	「物理学1」「物理学2」「物理学3」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	自然科学史	4	1	科目を廃止する	変更なし 〔「自然科学史」を修得した ものとする〕	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける</p> <p>①2015年3月31日（2014年度の最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は、有効とする（「自然科学史」4単位を修得したものとする） ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る</p> <p>②経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降も、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必修区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選択	選択								
		○	基礎特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
			放送大学単位 認定科目			※変更なし	-	-	-	-
外国語科目（いずれか1外国語4単位（うちスクーリングで2単位以上）必修）										
		○	英語	2	2	1	※変更なし	-	-	-
		○	英語	3	2	1	※変更なし	-	-	-
		○	英語	S	1	2	1	※変更なし	-	-
		○	独語	1	2	1	※変更なし	-	-	-
		○	独語	S	1	2	1	※変更なし	-	-
		○	仏語	1	2	1	※変更なし	-	-	-
		○	仏語	S	1	2	1	※変更なし	-	-
保健体育科目（いずれか1科目2単位必修）										
		○	健康・スポーツ 科学概論	2	2	1	※変更なし	-	-	-
		○	スポーツ 総合演習	2	2	1	※変更なし	-	-	-

- ※1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として取扱いません。
- ※2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）がないことをいいます。なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されていないことに限り、
- ※3 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません（従来どおり）。

2. その他

項目	変更内容等
科目の新設	2013年4月から、以下の科目を新設する 「人文地理学」「自然地理学」「東洋史」「論理学」
社会分野の卒業要件の変更	2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する） <変更前> 2科目8単位以上 <変更後> 8単位以上
自然分野の卒業要件の変更	2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する） <変更前> 2科目8単位以上 <変更後> 4科目8単位以上 ※ただし、変更前に旧カリキュラム科目で単位修得した場合は、旧カリキュラム科目（4単位）につき2科目履修したものとみなす この場合、「数学」「化学」「生物学」「物理学」「自然科学史」のうちの複数の分野の科目の単位を修得することを要する

(2) 専門教育課程

①法学部法律学科

《2013年4月から》

選択必修（科目構成単位を充たし8科目）	32単位	}	50単位 (卒業論文を選択しない場合は54単位)
選択必修（8科目32単位を超えた単位）			
選択（卒業論文を含む）			
合計	82単位 (卒業論文を選択しない場合は86単位)		

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考	
		○	卒業論文	4	4	8科目32単位必修 32単位を超えて取得した場合、選択科目の修得単位とする	
	○		憲法	4	2		
	○		民法総則	4	1		
	○		物権法	4	2		
	○		債権総論	4	3		
	○		債権各論	4	3		
	○		商法総則・商行為法	4	3		
	○		会社法	4	3		
	○		刑法総論	4	2		
	○		刑法各論	4	3		
	○		民事訴訟法	4	4		
	○		刑事訴訟法	4	4		
	○		国際法総論	4	3		
	○		行政法	4	3		
	○		労働法	4	3		
	○		国際法各論	4	4		
		○	教育法	4	3		
		○	親族法・相続法	4	3		
		○	民事執行法	4	4		
		○	法律学演習	2	3	8単位まで履修可	
		○	手形法・小切手法	4	3		
		○	保険法・海商法	4	3		
		○	英米法	2	2		
		○	日本法制史	4	3		
		○	倒産法	2	3		
		○	法哲学	2	2		
		○	政治学	2	2	4単位まで履修可	
		○	社会経済学A	2	4		
		○	社会経済学B	2	4		
		○	経済政策論A	2	4		
		○	経済政策論B	2	4		
		○	労使関係論	4	3		
		○	法律学特講	2	2	8単位まで履修可	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可	
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可	
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可	
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可	
		○	(他学部・他学科公開科目)	2	2	16単位まで履修可	

《2013年3月まで》

選択必修（科目構成単位を充たし8科目）	32単位	}	46単位以上
選択必修（8科目32単位を超えた単位）			
選択			
卒業論文	4単位		
合計	82単位		

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	4	4	
	○		憲法	4	2	
	○		民法一部（民法総則）	4	1	
	○		民法二部（物権法）	4	2	
	○		民法三部（債権総論）	4	3	
	○		民法四部（債権各論）	4	3	
	○		商法一部（総則・商行為）	4	3	
	○		商法二部（会社法）	4	3	
	○		刑法一部	4	2	
		○	刑法二部	4	3	
	○		民事訴訟法一部	4	4	
	○		刑事訴訟法	4	4	
	○		国際法一部	4	3	
	○		行政法	4	3	
	○		労働法	4	3	
		○	国際法二部	4	4	
	○		教育法	4	3	
		○	民法五部（親族法・相続法）	4	3	
		○	民事訴訟法二部	4	4	
		○	法律学演習	2	3	8単位まで履修可
		○	商法三部（手形・小切手法）	4	3	
		○	商法四部（保険法・海商法）	4	3	
		○	英米法	2	2	
		○	日本法制史	4	3	
		○	法哲学	2	2	
		○	政治学	2	2	4単位まで履修可
		○	経済原論	4	4	
		○	経済政策	4	4	
		○	労使関係論	4	3	
		○	法律学特講	2	2	8単位まで履修可
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（法学部法律学科）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	4	4	選択科目に変更する	選択科目に変更する ※修得済単位は選択科目として有効 ただし、2013年9月以前の卒業においては単位修得することを要する（従来どおり） ※2014年3月以降の卒業においては、単位修得不要（この場合、専門教育科目を86単位以上修得することを要する）	同左	同左	-
	○		憲法	4	2	※変更なし	-	-	-	-
	○		民法一部（民法総則）	4	1	「民法総則」に名称変更する	変更なし （「民法一部（民法総則）」を修得したものとする）	「民法総則」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「民法総則」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○		民法二部（物権法）	4	2	「物権法」に名称変更する	変更なし （「民法二部（物権法）」を修得したものとする）	「物権法」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「物権法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○		民法三部（債権総論）	4	3	「債権総論」に名称変更する	変更なし （「民法三部（債権総論）」を修得したものとする）	「債権総論」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「債権総論」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

○	民法四部 (債権各論)	4	3	「債権各論」に名称変更する	変更なし (「民法四部(債権各論)」を修得したものと する)	「債権各論」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「債権各論」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	商法一部 (総則・商行為)	4	3	「商法総則・商行為法」に名称変更する	変更なし (「商法一部(総則・商行為)」を修得したものと する)	「商法総則・商行為法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「商法総則・商行為法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	商法二部 (会社法)	4	3	「会社法」に名称変更する	変更なし (「商法二部(会社法)」を修得したものと する)	「会社法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「会社法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	刑法一部	4	2	「刑法総論」に名称変更する	変更なし (「刑法一部」を修得したものと する)	「刑法総論」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「刑法総論」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	刑法二部	4	3	「刑法各論」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する	科目名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「刑法二部」を選択必修科目で修得したものと する)	「刑法各論」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「刑法各論」(選択必修科目)を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	民事訴訟法一部	4	4	「民事訴訟法」に名称変更する	変更なし (「民事訴訟法一部」を修得したものと する)	「民事訴訟法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「民事訴訟法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	刑事訴訟法	4	4	※変更なし	-	-	-	-
○	国際法一部	4	3	「国際法総論」に名称変更する	変更なし (「国際法一部」を修得したものと する)	「国際法総論」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「国際法総論」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	行政法	4	3	※変更なし	-	-	-	-
○	労働法	4	3	※変更なし	-	-	-	-

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
		○	国際法二部	4	4	「国際法各論」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する	科目名称は変更しない 選択必修科目に変更する (国際法二部)を選択必修科目で修得したものとする)	「国際法各論」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「国際法各論」(選択必修科目)を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	教育法	4	3	選択科目に区分変更する	変更なし (選択必修科目として修得したものとする)	変更なし (引き続き選択必修科目として履修する) 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	選択科目として履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、修得単位数の有無に関わらず、復籍・再入学以降、選択科目に変更する
		○	民法五部 (親族法・相続法)	4	3	「親族法・相続法」に名称変更する	変更なし (「民法五部(親族法・相続法)」を修得したものとする)	「親族法・相続法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「親族法・相続法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	民事訴訟法二部	4	4	「民事執行法」に名称変更する	変更なし (「民事訴訟法二部」を修得したものとする)	「民事執行法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「民事執行法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	法律学演習	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	商法三部 (手形・小切手法)	4	3	「手形法・小切手法」に名称変更する	変更なし (「商法三部(手形・小切手法)」を修得したものとする)	「手形法・小切手法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「手形法・小切手法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	商法四部 (保険法・海商法)	4	3	「保険法・海商法」に名称変更する	変更なし (「商法四部(保険法・海商法)」を修得したものとする)	「保険法・海商法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「保険法・海商法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	英米法	2	2	※変更なし	-	-	-	-

	○ 日本法制史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○ 法 哲 学	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○ 政 治 学	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○ 経 済 原 論	4	4	2単位科目 〔社会経済学A〕〔社会経済学B〕に変更する	変更なし 〔経済原論〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「社会経済学B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「社会経済学A」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「経済原論」の設題第1回の提出・合格 →「社会経済学A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経済原論」の合格 →「社会経済学A」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経済原論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「社会経済学A」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経済原論」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「社会経済学A」「社会経済学B」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
		○	経済政策	4	4	2単位科目 〔「経済政策論A」「経済政策論B」〕に変更する	変更なし 〔「経済政策」を修得したものとする〕	①スクーリングで2単位修得済の場合 「経済政策論B」を修得したものと読替える ②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経済政策論A」に読替える ●レポートの読替え 「経済政策」の設題第1回の提出・合格 →「経済政策論A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経済政策」の合格 →「経済政策論A」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)まで、「経済政策」の設題・問題を使用する(経過措置期間終了日(2015年3月31日)以降は、「経済政策論A」の設題・問題を使用する) ③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効(「経済政策」4単位を修得したものとする) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	「経済政策論A」「経済政策論B」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	労使関係論	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	法律学特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	情報科学実習	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	※他学部・他学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-

※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴(レポート1設題以上の提出(免除を含む)、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る)があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として取扱いません。

※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴(レポート1設題以上の提出(免除を含む)、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る)がないことをいいます。

なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されていないことに限り、

※注3 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません(従来どおり)。

2. その他

項目	変更内容等
科目の新設	2013年4月から、以下の科目を新設する 「倒産法」
専門教育科目の卒業要件の変更	2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する） <変更前> 選択必修（科目構成単位を充たし8科目） 32単位 選択必修（8科目32単位を超えた単位）+ 選択 46単位以上 卒業論文 4単位 合 計 82単位 <変更後> 選択必修（科目構成単位を充たし8科目） 32単位 選択必修（8科目32単位を超えた単位）+ 選択（卒業論文4単位を含む） 50単位（卒業論文を履修しない場合は54単位） 合 計 82単位（卒業論文を履修しない場合は86単位） ※選択必修科目8科目32単位の卒業要件を充たしていれば、科目構成単位を充たしていない選択必修科目、選択科目の単位（4単位のうち2単位しか修得していない単位）も卒業所要単位に算入する（従来どおり）

日本文学科では、2013年度より文学・言語・芸能文化という3つのコースを定めます。
 コースの概要や選択については、P.72を参照してください。

②文学部日本文学科（文学コース）

《2013年4月から》

必修	20単位
選択必修	20単位以上
選択	24単位以上
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
○			日本文芸学概論	4	1	
○			日本文芸史Ⅰ	4	2	
○			日本語学概論	4	1	
○			文学概論	4	2	
○			日本文芸史Ⅱ	4	2	
	○		日本文芸研究特講・上代	4	1	20単位以上必修 20単位を超えて修得した場合、選択科目の修得単位とする
	○		日本文芸研究特講・中古	4	1	
	○		日本文芸研究特講・中世	4	1	
	○		日本文芸研究特講・近世	4	1	
	○		日本文芸研究特講・近代	4	1	
	○		日本文芸研究特講・現代	4	2	
	○		日本文芸研究特講・言語	4	2	
	○		日本文芸研究特講・漢文	4	1	
	○		日本文芸研究特講・韻文	2	2	
	○		日本文芸研究特講・演劇	2	2	
	○		日本文芸研究特講・児童文芸	2	2	
	○		日本文芸研究特講・沖縄文芸	2	2	
	○		日本文芸研究特講・地域	2	2	
	○		日本文芸研究特講・日本学	2	2	
	○		日本文芸研究特講・音楽芸能史	2	2	
	○		日本文芸研究特講・祭りと芸能	2	2	
		○	中国文芸史	4	2	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	世界文芸思潮	4	3	
		○	書道史	2	3	
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	2単位まで履修可
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	2単位まで履修可
		○	日本語史	4	2	
		○	日本文法論	4	2	
		○	日本芸能史	4	2	
		○	日本美術史	4	2	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	(他学部・他学科公開科目)	2	2	16単位まで履修可

※2013年3月末で廃止：日本文芸特殊研究

《2013年3月まで》

必修	40単位
スクーリング必修	8単位
選択	26単位以上
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
○			日本文学概論	4	1	
○			日本文学史	4	2	
○			日本語学概論	4	2	
		○	日本文学特講2	4	3	
○			日本文学特殊研究	2×4	2	8単位必修
○			日本文学作品作家研究(古代)	4	2	
○			日本文学作品作家研究(中世)	4	3	
○			日本文学作品作家研究(近世)	4	3	
○			日本文学作品作家研究(近代)	4	2	
○			日本文学作品作家研究(現代)	4	3	
		○	漢文学	4	3	
		○	日本文学特講1	2	3	
		○	中国文芸史	4	3	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	世界文芸思潮	4	3	
		○	書道史	2	3	
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	2単位まで履修可
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	2単位まで履修可
○			日本語史	4	3	
○			日本文法論	4	2	
		○	日本美術史	4	3	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	(他学部・他学科公開科目)	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（文学部日本文学科 文学コース）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	8	4	※変更なし	-	-	-	-
○			日本文芸学概論	4	1	※変更なし	-	-	-	-
○			日本文芸史	4	2	「日本文芸史Ⅰ」に名称変更する	変更なし （「日本文芸史」を修得したものとする）	「日本文芸史Ⅰ」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本文芸史Ⅰ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○			日本語学概論	4	2	履修学年を1年に引下げる	※変更なし	※変更なし	1年から履修できる	-
		○	日本文学特講2	4	3	「日本文芸史Ⅱ」に名称変更する 必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下げる	名称は変更しない 必修科目に変更する （「日本文学特講2」を必修科目として修得したものとする）	「日本文芸史Ⅱ」（必修科目）に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本文芸史Ⅱ」（必修科目）を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○			日本文芸特殊研究	2×4	2	科目を廃止する	卒業判定時に最大28単位分を、新カリキュラムに充当（読替え）する ※詳細は、後掲の「日本文芸特殊研究読替えパターン」を参照	※該当なし	新規履修はできない	-
○			日本文芸作家研究（古代）	4	2	「日本文芸研究特講・中古」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下げる	名称は変更しない 選択必修科目に変更する （「日本文芸作家研究（古代）」を選択必修科目で修得したものとする）	2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限り）は、履修途中の単位数（4単位又は2単位）を問わず、「日本文芸研究特講・中古」（選択必修科目）に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位修得することはできない	「日本文芸研究特講・中古」（選択必修科目）を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

○		日本文芸作家研究 (中世)	4	3	「日本文芸研究特講・中世」に名称変更する 選択必修科目に区分 変更する 履修学年を1年に引下 る	名称は変更しない 選択必修科目に変更 する (「日本文芸作品作家 研究(中世)」を選択 必修科目で修得した ものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートにつ いては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設 題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、 履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日 本文芸研究特講・中世」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修 得後、更に2単位修得することはできない	「日本文芸研究特講・ 中世」(選択必修科 目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に 復籍・再入学する場 合は、復籍・再入学 以降、左記のとおり 取扱う
○		日本文芸作家研究 (近世)	4	3	「日本文芸研究特講・近世」に名称変更する 選択必修科目に区分 変更する 履修学年を1年に引下 る	名称は変更しない 選択必修科目に変更 する (「日本文芸作品作家 研究(近世)」を選択 必修科目で修得した ものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートにつ いては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設 題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、 履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日 本文芸研究特講・近世」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修 得後、更に2単位修得することはできない	「日本文芸研究特講・ 近世」(選択必修科 目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に 復籍・再入学する場 合は、復籍・再入学 以降、左記のとおり 取扱う
○		日本文芸作家研究 (近代)	4	2	「日本文芸研究特講・近代」に名称変更する 選択必修科目に区分 変更する 履修学年を1年に引 下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更 する (「日本文芸作品作家 研究(近代)」を選択 必修科目で修得した ものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートにつ いては2013年3月のレポート提出締切日までに1設 題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は履修 途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず「日本文 芸研究特講・近代」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし履修途中の単位数が2単位の場合は2単位修得 後、更に2単位修得することはできない	「日本文芸研究特講・ 近代」(選択必修科 目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う
○		日本文芸作家研究 (現代)	4	3	「日本文芸研究特講・現代」に名称変更する 選択必修科目に区分 変更する 履修学年を2年に引 下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更 する (「日本文芸作品作家 研究(現代)」を選択 必修科目で修得した ものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートにつ いては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設 題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、 履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日 本文芸研究特講・現代」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位 修得後、更に2単位修得することはできない	「日本文芸研究特講・ 現代」(選択必修科 目)を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う
○	○	漢文学	4	3	「日本文芸研究特講・漢文」に名称変更する 選択必修科目に区分 変更する 履修学年を1年に引 下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更 する (「漢文学」を選択必 修科目で修得したも のとする)	「日本文芸研究特講・漢文」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「日本文芸研究特講・ 漢文」(選択必修科 目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
		○	日本文学特講1	2	3	「日本文芸研究特講・演劇」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文学特講1」を選択必修科目で修得したものとす)	※該当なし	「日本文芸研究特講・演劇」(選択必修科目)を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	中国文芸史	4	3	履修学年を2年に引下る	※変更なし	※変更なし	2年から履修できる	-
		○	西洋美術史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	社会思想史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	世界文芸思潮	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	書道史	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	日本語史	4	3	選択科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	選択科目に変更する	選択科目に区分変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	選択科目として履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	日本文法論	4	2	選択科目に区分変更する	選択科目に変更する	選択科目に区分変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	選択科目として履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	日本美術史	4	3	履修学年を2年に引下る	※変更なし	※変更なし	2年から履修できる	-
		○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	情報科学実習	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-

	○	※他学部・他 学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-
--	---	------------------	---	---	-------	---	---	---	---

- ※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として扱いません。
- ※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）がないことをいいます。なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されていないことに限ります。
- ※注3 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません（従来どおり）。

2. その他

項目	変更内容等
科目の新設	2013年4月から、以下の科目を新設する 「文学概論」 「日本文芸研究特講・上代」 「日本文芸研究特講・言語」 「日本文芸研究特講・韻文」 「日本文芸研究特講・児童文芸」 「日本文芸研究特講・沖縄文芸」 「日本文芸研究特講・特域」 「日本文芸研究特講・日本学」 「日本文芸研究特講・音楽芸能史」 「日本文芸研究特講・祭りと芸能」 「日本芸能史」
専門教育科目の卒業要件の変更	2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する） <変更前> 必修 40単位 スクーリング必修 8単位 選択 26単位以上 卒業論文 8単位 <変更後> 必修 20単位 選択必修 20単位以上 選択 24単位以上 卒業論文 8単位

日本文芸特殊研究読替えパターン（文学コース）

日本文芸特殊研究（古代～現代）は今まで修得した単位の時代は問わず（日本文芸作品作家研究の単位には充当せず）、下記の表のとおり読替える

1. 卒業判定時に最大8単位分を、新設必修科目「文学概論」「日本文芸史Ⅱ」、新設選択科目「日本芸能史」、選択科目「日本美術史」の順に読替える（日本文芸特殊研究の、どの科目も同様）

- (1) 卒業判定時までに新設必修科目「文学概論」「日本文芸史Ⅱ」を修得していない場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）
2単位	①	
4単位	①※1	
6単位	①	②
8単位	①	②

- (2) 卒業判定時までに「文学概論」を2単位修得した場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）	日本芸能史 （4単位）
2単位	★ ①		
4単位	★ ①	②	
6単位	★ ①	②	
8単位	★ ①	②	③

- 4単位修得した場合

文学概論 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）	日本芸能史 （4単位）
★	①	
★	①	
★	①	②
★	①	②

- (3) 旧カリキュラム「日本文学特講2」を2単位修得している場合（「日本文芸史Ⅱ」を2単位修得していることを指す）

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）	日本芸能史 （4単位）
2単位	①	★	
4単位	①	★	
6単位	①	★	②
8単位	①	★	② ③

- 4単位修得した場合

文学概論 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）	日本芸能史 （4単位）
①	★	
①	★	
①	★	②
①	★	②

※旧カリキュラム「日本文学特講2」を未修得かつ、卒業判定時までに「日本文芸史Ⅱ」を修得した場合も考え方は同様

履修科目・状況により、読替え内容が異なるが、考え方としては、(1)～(3)のパターンと同様

2. 日本文芸特殊研究（古代～現代）を8単位を超えて修得した場合、選択必修科目、選択科目へ読替える

卒業判定時まで「文学概論」「日本文芸史Ⅱ」「日本芸能史」「日本美術史」を各4単位修得した場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）	日本芸能史 （4単位）	日本美術史 （4単位）	選択必修科目 （20単位）	選択科目
2単位	★	★	★	★	2単位	
4単位	★	★	★	★	4単位	
6単位	★	★	★	★	6単位	
8単位	★	★	★	★	8単位	
10単位	★	★	★	★	10単位	
⋮	★	★	★	★	⋮	
20単位	★	★	★	★	20単位	
22単位	★	★	★	★	20単位	2単位
24単位	★	★	★	★	20単位	4単位
26単位	★	★	★	★	20単位	6単位
28単位	★	★	★	★	20単位	8単位

※1 例) 新設必修科目を修得しておらず、「日本文芸特殊研究（古代～現代）」を4単位修得している場合は、「文学概論」の4単位に算入する

※2 ○の中の数字は読替えの優先順位

※3 ★は修得済単位

3. 28単位を超過した単位は卒業所要単位に算入しない（現行のとおり）

③文学部日本文学科（言語コース）

《2013年4月から》

必修	20単位
選択必修	20単位以上
選択	24単位以上
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
○			日本文芸学概論	4	1	
○			日本文芸史Ⅰ	4	2	
○			日本言語学概論	4	1	
○			日本言語史	4	2	
○			日本文法論	4	2	
	○		日本文芸研究特講・上代	4	1	20単位以上必修 20単位を超えて修得した 場合、選択科目の修得単 位とする
	○		日本文芸研究特講・中古	4	1	
	○		日本文芸研究特講・中世	4	1	
	○		日本文芸研究特講・近世	4	1	
	○		日本文芸研究特講・近代	4	1	
	○		日本文芸研究特講・現代	4	2	
	○		日本文芸研究特講・言語	4	2	
	○		日本文芸研究特講・漢文	4	1	
	○		日本文芸研究特講・韻文	2	2	
	○		日本文芸研究特講・演劇	2	2	
	○		日本文芸研究特講・児童文芸	2	2	
	○		日本文芸研究特講・沖縄文芸	2	2	
	○		日本文芸研究特講・特域	2	2	
	○		日本文芸研究特講・日本学	2	2	
	○		日本文芸研究特講・音楽芸能史	2	2	
	○		日本文芸研究特講・祭りと芸能	2	2	
		○	中国文芸史	4	2	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	世界文芸思潮	4	3	
		○	書道史	2	3	
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	2単位まで履修可
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	2単位まで履修可
		○	文学概論	4	2	
		○	日本文芸史Ⅱ	4	2	
		○	日本芸能史	4	2	
		○	日本美術史	4	2	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	(他学部・他学科公開科目)	2	2	16単位まで履修可

※2013年3月末で廃止：日本文芸特殊研究

《2013年3月まで》

必修	40単位
スクーリング必修	8単位
選択	26単位以上
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備 考
○			卒業論文	8	4	
○			日本文芸学概論	4	1	
○			日本文芸史	4	2	
○			日本語学概論	4	2	
○			日本語史	4	3	
○			日本文法論	4	2	
○			日本文芸特殊研究	2×4	2	8単位必修
○			日本文芸作品作家研究（古代）	4	2	
○			日本文芸作品作家研究（中世）	4	3	
○			日本文芸作品作家研究（近世）	4	3	
○			日本文芸作品作家研究（近代）	4	2	
○			日本文芸作品作家研究（現代）	4	3	
		○	漢文学	4	3	
		○	日本文学特講1	2	3	
		○	中国文芸史	4	3	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	世界文芸思潮	4	3	
		○	書道史	2	3	
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	2単位まで履修可
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	2単位まで履修可
		○	日本文学特講2	4	3	
		○	日本美術史	4	3	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（文学部日本文学科 言語コース）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	8	4	※変更なし	-	-	-	-
○			日本文芸概論	4	1	※変更なし	-	-	-	-
○			日本文芸史	4	2	「日本文芸史Ⅰ」に名称変更する	変更なし （「日本文芸史」を修得したものとす）	「日本文芸史Ⅰ」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本文芸史Ⅰ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○			日本語学概論	4	2	履修学年を1年に引下る	※変更なし	※変更なし	1年から履修できる	-
○			日本語史	4	3	履修学年を2年に引下る	※変更なし	※変更なし	2年から履修できる	-
○			日本文法論	4	2	※変更なし	-	-	-	-
○			日本文芸特殊研究	2×4	2	科目を廃止する	卒業判定時に最大28単位分を、新カリキュラムに充当（読替え）する ※詳細は、後掲の「日本文芸特殊研究読替えパターン」を参照	※該当なし	新規履修はできない	-
○			日本文芸作家研究（古代）	4	2	「日本文芸研究特講・中古」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する （「日本文芸作家研究（古代）」を選択必修科目で修得したものとす）	2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限り）は、履修途中の単位数（4単位又は2単位）を問わず、「日本文芸研究特講・中古」（選択必修科目）に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・中古」（選択必修科目）を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

○		日本文芸作家研究 (中世)	4	3	「日本文芸研究特講・中世」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(中世)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・中世」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・中世」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○		日本文芸作家研究 (近世)	4	3	「日本文芸研究特講・近世」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(近世)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・近世」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・近世」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○		日本文芸作家研究 (近代)	4	2	「日本文芸研究特講・近代」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(近代)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・近代」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・近代」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○		日本文芸作家研究 (現代)	4	3	「日本文芸研究特講・現代」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(現代)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・現代」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・現代」(選択必修科目)を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	漢文学	4	3	「日本文芸研究特講・漢文」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「漢文学」を選択必修科目で修得したものとする)	「日本文芸研究特講・漢文」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「日本文芸研究特講・漢文」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	日本文学特講1	2	3	「日本文芸研究特講・演劇」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文学特講1」を選択必修科目で修得したものとする)	※該当なし	「日本文芸研究特講・演劇」(選択必修科目)を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	中国文芸史	4	3	履修学年を2年に引下る	※変更なし	※変更なし	2年から履修できる	-
		○	西洋美術史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	社会思想史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	世界文芸思潮	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	書道史	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	日本文学特講2	4	3	「日本文芸史Ⅱ」に名称変更する履修学年を2年に引下る	変更なし（「日本文学特講2」を修得したものとする）	「日本文芸史Ⅱ」に変更する学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本文芸史Ⅱ」を履修する2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	日本美術史	4	3	履修学年を2年に引下る	※変更なし	※変更なし	2年から履修できる	-
		○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	情報科学実習	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	※他学部・他学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-

※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限ります。最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として取扱いません。

※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）がないことをいいます。

なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されていないことに限ります。

※注3 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません（従来どおり）。

2. その他

項目	変更内容等
科目の新設	2013年4月から、以下の科目を新設する 「文学概論」 「日本文芸研究特講・上代」 「日本文芸研究特講・言語」 「日本文芸研究特講・韻文」 「日本文芸研究特講・児童文芸」 「日本文芸研究特講・沖縄文芸」 「日本文芸研究特講・特域」 「日本文芸研究特講・日本学」 「日本文芸研究特講・音楽芸能史」 「日本文芸研究特講・祭りと芸能」 「日本芸能史」
専門教育科目の卒業要件の変更	2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する） <変更前> 必修 40単位 スクーリング必修 8単位 選択 26単位以上 卒業論文 8単位 <変更後> 必修 20単位 選択必修 20単位以上 選択 24単位以上 卒業論文 8単位

日本文芸特殊研究読替えパターン（言語コース）

日本文芸特殊研究（古代～現代）は今まで修得した単位の時代は問わず（日本文芸作品作家研究の単位には充当せず）、下記の表のとおり読替える

1. 卒業判定時に最大8単位分を、新設科目「文学概論」「日本芸能史」、選択科目「日本文芸史Ⅱ」「日本美術史」の順に読替える（日本文芸特殊研究の、どの科目も同様）

- (1) 卒業判定時までに新設科目「文学概論」「日本芸能史」を修得していない場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本芸能史 （4単位）
2単位	①	
4単位	①※1	
6単位	①	②
8単位	①	②

- (2) 卒業判定時までに「文学概論」を2単位修得した場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本芸能史 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）
2単位	★ ①		
4単位	★ ①	②	
6単位	★ ①	②	
8単位	★ ①	②	③

- 4単位修得した場合

文学概論 （4単位）	日本芸能史 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）
★	①	
★	①	
★	①	②
★	①	②

- (3) 卒業判定時までに「日本芸能史」を2単位修得した場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本芸能史 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）
2単位	①	★	
4単位	①	★	
6単位	①	★ ②	
8単位	①	★ ②	③

- 4単位修得した場合

文学概論 （4単位）	日本芸能史 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）
①	★	
①	★	
①	★	②
①	★	②

履修科目・状況により、読替え内容が異なるが、考え方としては、(1)～(3)のパターンと同様

2. 日本文芸特殊研究（古代～現代）を8単位を超えて修得した場合、選択必修科目、選択科目へ読替える

卒業判定時まで「文学概論」「日本芸能史」「日本文芸史Ⅱ」「日本美術史」を各4単位修得した場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	文学概論 （4単位）	日本芸能史 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）	日本美術史 （4単位）	選択必修科目 （20単位）	選択科目
2単位	★	★	★	★	2単位	
4単位	★	★	★	★	4単位	
6単位	★	★	★	★	6単位	
8単位	★	★	★	★	8単位	
10単位	★	★	★	★	10単位	
⋮	★	★	★	★	⋮	
20単位	★	★	★	★	20単位	
22単位	★	★	★	★	20単位	2単位
24単位	★	★	★	★	20単位	4単位
26単位	★	★	★	★	20単位	6単位
28単位	★	★	★	★	20単位	8単位

※1 例) 新設必修科目を修得しておらず、「日文特研（古代～現代）」を4単位修得している場合は、「文学概論」の4単位に算入する

※2 ○の中の数字は読替えの優先順位

※3 ★は修得済単位

3. 28単位を超過した単位は卒業所要単位に算入しない（現行のとおり）

④文学部日本文学科（芸能文化コース）

《2013年4月から》

必修	20単位
選択必修	20単位以上
選択	24単位以上
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
○			日本文芸学概論	4	1	
○			日本文芸史Ⅰ	4	2	
○			日本語学概論	4	1	
○			日本芸能史	4	2	
○			日本美術史	4	2	
	○		日本文芸研究特講・上代	4	1	20単位以上必修 20単位を超えて修得した場合、選択科目の修得単位とする
	○		日本文芸研究特講・中古	4	1	
	○		日本文芸研究特講・中世	4	1	
	○		日本文芸研究特講・近世	4	1	
	○		日本文芸研究特講・近代	4	1	
	○		日本文芸研究特講・現代	4	2	
	○		日本文芸研究特講・言語	4	2	
	○		日本文芸研究特講・漢文	4	1	
	○		日本文芸研究特講・韻文	2	2	
	○		日本文芸研究特講・演劇	2	2	
	○		日本文芸研究特講・児童文芸	2	2	
	○		日本文芸研究特講・沖縄文芸	2	2	
	○		日本文芸研究特講・特域	2	2	
	○		日本文芸研究特講・日本学	2	2	
	○		日本文芸研究特講・音楽芸能史	2	2	
	○		日本文芸研究特講・祭りと芸能	2	2	
		○	中国文芸史	4	2	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	世界文芸思潮	4	3	
		○	書道史	2	3	
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	2単位まで履修可
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	2単位まで履修可
		○	文学概論	4	2	
		○	日本文芸史Ⅱ	4	2	
		○	日本語史	4	2	
		○	日本文法論	4	2	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	(他学部・他学科公開科目)	2	2	16単位まで履修可

※2013年3月末で廃止：日本文芸特殊研究

《2013年3月まで》

必修	40単位
スクーリング必修	8単位
選択	26単位以上
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
○			日本文芸学概論	4	1	
○			日本文芸史	4	2	
○			日本語学概論	4	2	
○			日本文芸特殊研究	2×4	2	8単位必修
		○	日本美術史	4	3	
○			日本文芸作品作家研究（古代）	4	2	
○			日本文芸作品作家研究（中世）	4	3	
○			日本文芸作品作家研究（近世）	4	3	
○			日本文芸作品作家研究（近代）	4	2	
○			日本文芸作品作家研究（現代）	4	3	
		○	漢文学	4	3	
		○	日本文学特講1	2	3	
		○	中国文芸史	4	3	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	世界文芸思潮	4	3	
		○	書道史	2	3	
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	2単位まで履修可
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	2単位まで履修可
		○	日本文学特講2	4	3	
○			日本語史	4	3	
○			日本文法論	4	2	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（文学部日本文学科 芸能文化コース）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	8	4	※変更なし	-	-	-	-
○			日本文芸概論	4	1	※変更なし	-	-	-	-
○			日本文芸史	4	2	「日本文芸史Ⅰ」に名称変更する	変更なし （「日本文芸史」を修得したものとする）	「日本文芸史Ⅰ」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本文芸史Ⅰ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○			日本語学概論	4	2	履修学年を1年に引下る	※変更なし	※変更なし	1年から履修できる	-
○			日本文芸特殊研究	2×4	2	科目を廃止する	卒業判定時に最大28単位分を、新カリキュラムに充当（読替え）する ※詳細は、後掲の「日本文芸特殊研究読替えパターン」を参照	※該当なし	新規履修はできない	-
		○	日本美術史	4	3	必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	必修科目に変更する	必修科目に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	必修科目として履修する 2年から履修できる	-
○			日本文芸作家研究（古代）	4	2	「日本文芸研究特講・中古」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する （「日本文芸作家研究（古代）」を選択必修科目で修得したものとする）	2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限り）は、履修途中の単位数（4単位又は2単位）を問わず、「日本文芸研究特講・中古」（選択必修科目）に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・中古」（選択必修科目）を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

○		日本文芸作家研究 (中世)	4	3	「日本文芸研究特講・中世」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(中世)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・中世」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・中世」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○		日本文芸作家研究 (近世)	4	3	「日本文芸研究特講・近世」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(近世)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・近世」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・近世」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○		日本文芸作家研究 (近代)	4	2	「日本文芸研究特講・近代」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(近代)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・近代」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・近代」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○		日本文芸作家研究 (現代)	4	3	「日本文芸研究特講・現代」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文芸作家研究(現代)」を選択必修科目で修得したものとする)	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、履修途中の単位数(4単位又は2単位)を問わず、「日本文芸研究特講・現代」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる ただし、履修途中の単位数が2単位の場合は、2単位修得後、更に2単位を修得することはできない	「日本文芸研究特講・現代」(選択必修科目)を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	漢文学	4	3	「日本文芸研究特講・漢文」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を1年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「漢文学」を選択必修科目で修得したものとする)	「日本文芸研究特講・漢文」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「日本文芸研究特講・漢文」(選択必修科目)を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	日本文学特講1	2	3	「日本文芸研究特講・演劇」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「日本文学特講1」を選択必修科目で修得したものとする)	※該当なし	「日本文芸研究特講・演劇」(選択必修科目)を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	中国文芸史	4	3	履修学年を2年に引下る	※変更なし	※変更なし	2年から履修できる	-
		○	西洋美術史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	社会思想史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	世界文芸思潮	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	書道史	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	論文作成基礎講座Ⅰ	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	論文作成基礎講座Ⅱ	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	日本文学特講2	4	3	「日本文芸史Ⅱ」に名称変更する 履修学年を2年に引下る	変更なし （「日本文芸史Ⅱ」を修得したものとする）	「日本文芸史Ⅱ」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本文芸史Ⅱ」を履修する	2013年3月31日以前に4単位修得せず離籍（除籍又は退学）し、2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学時に「日本文芸史Ⅱ」に変更する
○			日本語史	4	3	選択科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	選択科目に変更する	選択科目に区分変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	選択科目として履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○			日本文法論	4	2	選択科目に区分変更する	選択科目に変更する	選択科目に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	選択科目として履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	情報科学実習	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-

○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
○	※他学部・他 学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-

※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）があることをいいます。
なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として取扱いません。

※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）がないことをいいます。

なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されていないことに限り、

※注3 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません（従来どおり）。

2. その他

項目	変更内容等
科目の新設	2013年4月から、以下の科目を新設する 「文学概論」 「日本文芸研究特講・上代」 「日本文芸研究特講・言語」 「日本文芸研究特講・韻文」 「日本文芸研究特講・児童文芸」 「日本文芸研究特講・沖縄文芸」 「日本文芸研究特講・特域」 「日本文芸研究特講・日本学」 「日本文芸研究特講・音楽芸能史」 「日本文芸研究特講・祭りと芸能」 「日本芸能史」
専門教育科目の卒業要件の変更	2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する） <変更前> 必修 40単位 スクーリング必修 8単位 選択 26単位以上 卒業論文 8単位 <変更後> 必修 20単位 選択必修 20単位以上 選択 24単位以上 卒業論文 8単位

日本文芸特殊研究読替えパターン（芸能文化コース）

日本文芸特殊研究（古代～現代）は今まで修得した単位の時代は問わず（日本文芸作品作家研究の単位には充当せず）、下記の表のとおり読替える

1. 卒業判定時に最大8単位分を、新設必修科目「日本芸能史」「日本美術史」、新設選択科目「文学概論」、選択科目「日本文芸史Ⅱ」の順に読替える（日本文芸特殊研究の、どの科目も同様）

- (1) 卒業判定時までに新設必修科目「日本芸能史」「日本美術史」を修得していない場合

日本文芸特殊研究 (古代～現代) 修得単位	日本芸能史 (4単位)	日本美術史 (4単位)
2単位	①	
4単位	①※1	
6単位	①	②
8単位	①	②

- (2) 卒業判定時までに「日本芸能史」を2単位修得した場合

日本文芸特殊研究 (古代～現代) 修得単位	日本芸能史 (4単位)	日本美術史 (4単位)	文学概論 (4単位)
2単位	★ ①		
4単位	★ ①	②	
6単位	★ ①	②	
8単位	★ ①	②	③

- 4単位修得した場合

日本芸能史 (4単位)	日本美術史Ⅱ (4単位)	文学概論 (4単位)
★	①	
★	①	
★	①	②
★	①	②

- (3) 卒業判定時までに旧カリキュラムで「日本美術史」を2単位修得している場合

日本文芸特殊研究 (古代～現代) 修得単位	日本芸能史 (4単位)	日本美術史 (4単位)	文学概論 (4単位)
2単位	①	★	
4単位	①	★	
6単位	①	★ ②	
8単位	①	★ ②	③

- 4単位修得した場合

日本芸能史 (4単位)	日本美術史 (4単位)	文学概論 (4単位)
①	★	
①	★	
①	★	②
①	★	②

※旧カリキュラムで「日本美術史」を未修得かつ、卒業判定時までに「日本美術史」を修得した場合も考え方は同様

履修科目・状況により、読替え内容が異なるが、考え方としては、(1)～(3)のパターンと同様

2. 日本文芸特殊研究（古代～現代）を8単位を超えて修得した場合、選択必修科目、選択科目へ読替える

卒業判定時まで「日本芸能史」「日本美術史」「文学概論」「日本文芸史Ⅱ」を各4単位修得した場合

日本文芸特殊研究 （古代～現代）修得単位	日本芸能史 （4単位）	日本美術史 （4単位）	文学概論 （4単位）	日本文芸史Ⅱ （4単位）	選択必修科目 （20単位）	選択科目
2単位	★	★	★	★	2単位	
4単位	★	★	★	★	4単位	
6単位	★	★	★	★	6単位	
8単位	★	★	★	★	8単位	
10単位	★	★	★	★	10単位	
⋮	★	★	★	★	⋮	
20単位	★	★	★	★	20単位	
22単位	★	★	★	★	20単位	2単位
24単位	★	★	★	★	20単位	4単位
26単位	★	★	★	★	20単位	6単位
28単位	★	★	★	★	20単位	8単位

※1 例) 新設必修科目を修得しておらず、「日文特研（古代～現代）」を4単位修得している場合は、「日本芸能史」の4単位に算入する

※2 ○の中の数字は読替えの優先順位

※3 ★は修得済単位

3. 28単位を超過した単位は卒業所要単位に算入しない（現行のとおり）

⑤文学部史学科

《2013年4月から》

必修	16単位
スクーリング選択必修（4科目）	8単位
選択（日本・東洋・西洋の各分野から最低1科目）	50単位
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
○			史学概論	4	2	
○	○		日本史概説	4	1	5科目のうち4科目8単位をスクーリングによる必修選択とする
○	○		西洋史概説	4	2	
○	○		東洋史概説	4	2	
	○		史学演習1	2	3	
	○		史学演習2	2	3	
		○	史学演習3	2	3	史学演習は内容にかかわらず、修得順に付番される
		○	史学演習4	2	3	
		○	日本美術史	4	3	1科目以上必修
		○	日本近代史	4	3	
		○	日本史特講（日本思想史）	4	3	
		○	日本史特講（日本仏教史）	4	3	
		○	日本近世史	4	3	
		○	日本古代史	4	3	
		○	日本中世史	4	3	
		○	日本法制史	4	3	
		○	日本史特講（地方史学）	4	3	
		○	日本古文書学	4	3	
		○	日本史特講（日本科学史）	4	3	1科目以上必修
		○	東洋史特講（中国思想史）	4	3	
		○	東洋史特講（中国近世史）	4	3	
		○	東洋史特講（南海史）	4	3	
		○	東洋美術史	4	3	
		○	東洋史特講（中国経済史）	4	3	
		○	日本文芸研究特講・漢文	4	3	
		○	東洋史特講（中国現代史）	4	3	
		○	経済史A	2	3	1科目以上必修
		○	経済史B	2	3	
		○	西洋史特講（西洋哲学史）	4	3	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	西洋史特講（キリスト教史）	4	3	
		○	西洋史特講（ロシア史Ⅰ）	2	3	
		○	西洋史特講（ロシア史Ⅱ）	2	3	
		○	西洋史特講（アメリカ史）	4	3	
		○	日本史特講（海外交渉史）	4	3	
		○	日本考古学	4	2	
		○	歴史資料学1	2	2	歴史資料学は内容にかかわらず、受講順に付番される
		○	歴史資料学2	2	2	
		○	歴史資料学3	2	2	
		○	歴史資料学4	2	2	
		○	歴史資料学5	2	2	
		○	歴史資料学6	2	2	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

《2013年3月まで》

必修	16単位
スクーリング選択必修（4科目）	8単位
選択（日本・東洋・西洋の各分野から最低1科目）	50単位
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
○			史学概論	4	2	
○	○		日本史概説	4	1	5科目のうち4科目8単位をスクーリングによる必修選択とする
○	○		西洋史概説	4	2	
○	○		東洋史概説	4	2	
	○		史学演習1	2	3	
	○		史学演習2	2	3	
		○	史学演習3	2	3	史学演習は内容にかかわらず、修得順に付番される
		○	史学演習4	2	3	
		○	日本美術史	4	3	1科目以上必修
		○	日本近代史	4	3	
		○	日本思想史	4	3	
		○	日本仏教史	4	3	
		○	日本近世史	4	3	
		○	日本古代史	4	3	
		○	日本中世史	4	3	
		○	日本法制史	4	3	
		○	地方史学	4	3	
		○	古文書学	4	3	
		○	日本科学史	4	3	1科目以上必修
		○	中国思想史	4	3	
		○	中国近世史	4	3	
		○	南海史	4	3	
		○	東洋美術史	4	3	
		○	中国経済史	4	3	
		○	漢文学	4	3	
		○	中国現代史	4	3	
		○	経済史	4	3	1科目以上必修
		○	西洋哲学史	4	3	
		○	西洋美術史	4	3	
		○	キリスト教史	4	3	
		○	ロシア史Ⅰ（ロシア古代中世史）	2	3	
		○	ロシア史Ⅱ（ロシア近代史）	2	3	
		○	アメリカ史	4	3	
		○	海外交渉史	4	3	
		○	日本考古学	4	2	歴史資料学は内容にかかわらず、受講順に付番される
		○	歴史資料学1	2	2	
		○	歴史資料学2	2	2	
		○	歴史資料学3	2	2	
		○	歴史資料学4	2	2	
		○	歴史資料学5	2	2	
		○	歴史資料学6	2	2	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（文学部史学科）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	8	4	※変更なし	-	-	-	-
○			史学概論	4	2	※変更なし	-	-	-	-
○	○		日本史概説	4	1	※変更なし	-	-	-	-
○	○		西洋史概説	4	2	※変更なし	-	-	-	-
○	○		東洋史概説	4	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	史学演習1	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	史学演習2	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	史学演習3	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	史学演習4	2	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	日本美術史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	日本近代史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	日本思想史	4	3	「日本史特講（日本思想史）」に名称変更する	変更なし （「日本思想史」を修得したものとする）	「日本史特講（日本思想史）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本史特講（日本思想史）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	日本仏教史	4	3	「日本史特講（日本仏教史）」に名称変更する	変更なし （「日本仏教史」を修得したものとする）	「日本史特講（日本仏教史）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本史特講（日本仏教史）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	日本近世史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	日本古代史	4	3	※変更なし	-	-	-	-

	○	日本中世史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○	日本法制史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○	地方史学	4	3	「日本史特講（地方史学）」に名称変更する	変更なし （「地方史学」を修得したものとす）	「日本史特講（地方史学）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本史特講（地方史学）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	古文書学	4	3	「日本古文書学」に名称変更する	変更なし （「古文書学」を修得したものとす）	「日本古文書学」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本古文書学」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	日本科学史	4	3	「日本史特講（日本科学史）」に名称変更する	変更なし （「日本科学史」を修得したものとす）	「日本史特講（日本科学史）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本史特講（日本科学史）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	中国思想史	4	3	「東洋史特講（中国思想史）」に名称変更する	変更なし （「中国思想史」を修得したものとす）	「東洋史特講（中国思想史）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「東洋史特講（中国思想史）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	中国近世史	4	3	「東洋史特講（中国近世史）」に名称変更する	変更なし （「中国近世史」を修得したものとす）	「東洋史特講（中国近世史）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「東洋史特講（中国近世史）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	南海史	4	3	「東洋史特講（南海史）」に名称変更する	変更なし （「南海史」を修得したものとす）	「東洋史特講（南海史）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「東洋史特講（南海史）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	東洋美術史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○	中国経済史	4	3	「東洋史特講（中国経済史）」に名称変更する	変更なし （「中国経済史」を修得したものとす）	「東洋史特講（中国経済史）」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「東洋史特講（中国経済史）」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	漢文学	4	3	「日本文芸研究特講・漢文」に名称変更する	変更なし （「漢文学」を修得したものとす）	「日本文芸研究特講・漢文」に変更する 学習履歴（レポート合格等）は引き継がれる	「日本文芸研究特講・漢文」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
		○	中国現代史	4	3	「東洋史特講(中国現代史)」に名称変更する	変更なし 〔「中国現代史」を修得したものとする〕	「東洋史特講(中国現代史)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「東洋史特講(中国現代史)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	経済史	4	3	2単位科目 〔「経済史A」「経済史B」〕に変更する	変更なし 〔「経済史」を修得したものとする〕	①スクーリングで2単位修得済の場合 「経済史B」を修得したものと読替える ②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経済史A」に読替える ●レポートの読替え 「経済史」の設題第1回の提出・合格 →「経済史A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経済史」の合格 →「経済史A」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)まで、「経済史」の設題・問題を使用する(経過措置期間終了日(2015年3月31日)以降は、「経済史A」の設題・問題を使用する) ③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効(「経済史」4単位を修得したものとする) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	「経済史A」「経済史B」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	西洋哲学史	4	3	「西洋史特講(西洋哲学史)」に名称変更する	変更なし 〔「西洋哲学史」を修得したものとする〕	「西洋史特講(西洋哲学史)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「西洋史特講(西洋哲学史)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	西洋美術史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	キリスト教史	4	3	「西洋史特講(キリスト教史)」に名称変更する	変更なし 〔「キリスト教史」を修得したものとする〕	「西洋史特講(キリスト教史)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「西洋史特講(キリスト教史)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

	○	ロシア史Ⅰ (ロシア古代中世史)	2	3	「西洋史特講(ロシア史Ⅰ)」に名称変更する	変更なし (「ロシア史Ⅰ(ロシア古代中世史)」を修得したものとす)	「西洋史特講(ロシア史Ⅰ)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「西洋史特講(ロシア史Ⅰ)」を履修する	-
	○	ロシア史Ⅱ (ロシア近代史)	2	3	「西洋史特講(ロシア史Ⅱ)」に名称変更する	変更なし (「ロシア史Ⅱ(ロシア近代史)」を修得したものとす)	「西洋史特講(ロシア史Ⅱ)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「西洋史特講(ロシア史Ⅱ)」を履修する	-
	○	アメリカ史	4	3	「西洋史特講(アメリカ史)」に名称変更する	変更なし (「アメリカ史」を修得したものとす)	「西洋史特講(アメリカ史)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「西洋史特講(アメリカ史)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	海外交渉史	4	3	「日本史特講(海外交渉史)」に名称変更する	変更なし (「海外交渉史」を修得したものとす)	「日本史特講(海外交渉史)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「日本史特講(海外交渉史)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	日本考古学	4	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	歴史資料学1	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	歴史資料学2	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	歴史資料学3	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	歴史資料学4	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	歴史資料学5	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	歴史資料学6	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
	○	情報科学実習	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	※他学部・他学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-

※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴(レポート1設題以上の提出(免除を含む)、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る)があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として取扱いません。

※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴(レポート1設題以上の提出(免除を含む)、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る)がないことをいいます。

※注3 この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されていないことに限ります。

※注4 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません(従来どおり)。

⑥文学部地理学科

《2013年4月から》

必修（スクーリング必修を除く）	12単位
スクーリング必修	6単位
選択必修「人文」「自然」から各8単位以上	36単位以上
「地誌・その他」から16単位以上（8単位以上）	
選択必修（36単位を超えた単位）	12単位以上
選択	
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考	
○		卒業論文	8	4		
○		人文地理学概論（1）	2	1		
○		自然地理学概論（1）	2	1		
○		地理調査法（人文編）	4	1		
○		地理調査法（自然編）	4	1		
○		現地研究（人文）	1	3	※スクーリング必修科目	
○		現地研究（自然）	1	3	※スクーリング必修科目	
○	○	人文地理学演習	2	3	※スクーリング必修科目 2単位を超えて修得した場合は、1回2単位まで選択必修科目	
○	○	自然地理学演習	2	3	※スクーリング必修科目 2単位を超えて修得した場合は、1回2単位まで選択必修科目	
	○	自然地理学概論（2）	2	1	} 8単位以上 必修	
	○	地学概論	4	2		
	○	自然地理学（地形）	4	3		
	○	自然地理学（生物・土壌）	4	3		
	○	自然地理学（気候）	4	3		
	○	自然地理学（海洋・陸水）	4	3		
	○	人文地理学概論（2）	2	1	} 8単位以上 必修	
	○	経済地理学	4	3		
	○	人文地理学（都市）	4	3		
	○	人文地理学（農業）	4	3		
	○	人文地理学特講（地域・産業・生活）	4	3		
	○	文化地理学	4	3		
	○	地誌学概論	4	2	} 16単位以上 必修 ※（8単位以上必修）	
	○	日本地誌（1）（自然編）	4	2		
	○	日本地誌（2）（人文編）	4	2		
	○	世界地誌（1）（アジア）	4	3		
	○	世界地誌（2）（アメリカ・大洋州）	4	3		
	○	世界地誌（3）（欧・アフリカ）	4	3		
	○	地誌学特講	2	2		
	○	地図学	4	3		
	○	測量学及び測量実習（1）	2	3		
	○	測量学及び測量実習（2）	2	3		
	○	写真・読図演習（1）	2	3		
	○	写真・読図演習（2）	2	3		
	○	地理情報システム（GIS）（1）	2	3		
	○	地理情報システム（GIS）（2）	2	3		
	○	人文地理学特講	2	2	} 科目問わず 合計4単位まで卒業所要単位にカウント	
	○	自然地理学特講	2	2		
	○	地理特講（人文地理学演習）	2	3		人文地理学演習を4単位を超えて修得した場合
	○	地理特講（自然地理学演習）	2	3		自然地理学演習を4単位を超えて修得した場合
	○	地理特講（地誌学特講）	2	2	地誌学特講を2単位を超えて修得した場合	
	○	地域特講（現地研究（人文））	1	3	現地研究（人文）を1単位を超えて修得した場合	
	○	地域特講（現地研究（自然））	1	3	現地研究（自然）を1単位を超えて修得した場合	
	○	史学概論	4	3		
	○	日本史概説	4	3		
	○	東洋史概説	4	3		
	○	西洋史概説	4	3		
	○	社会経済学A	2	3		
	○	社会経済学B	2	3		
	○	総合特講	2	1	16単位まで履修可	
	○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可	
	○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可	
	○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可	
	○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可	

※2013年3月末で廃止：人文地理学概論、地図学演習、地理特講（地図学演習）、地図学Ⅰ、地図学Ⅱ、地理学特講（一部の科目は2013年4月以降経過措置あり）

《2013年3月まで》

必修（スクーリング必修を除く）	8単位
スクーリング必修	10単位
選択必修「人文」「自然」「地誌・その他」の各分野から2科目以上	36単位
選択必修（9科目36単位を超えた単位）	20単位以上
選択	20単位以上
卒業論文	8単位
合計	82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	8	4	
	○		人文地理学概論	4	1	
		○	地理学概論	4	3	
○			地理調査法（人文編）	4	2	
○			地理調査法（自然編）	4	2	
○			現地研究	1×2	3	2単位必修
○			人文地理学演習	2	3	
○			自然地理学演習	2	3	
○			地図学演習	2	3	
	○		地学概論	4	2	
	○		自然地理学（地形）	4	3	
	○		自然地理学（生物・土壌）	4	3	
	○		自然地理学（気候）	4	3	
	○		自然地理学（海洋・陸水）	4	3	
	○		経済地理学	4	3	
	○		人文地理学（都市）	4	3	
	○		人文地理学（農業）	4	3	
	○		人文地理学特講（地域・産業・生活）	4	3	
	○		文化地理学	4	3	
		○	地誌学通論	4	3	
	○		日本地誌Ⅰ（自然編）	4	2	
	○		日本地誌Ⅱ（人文編）	4	2	
	○		世界地誌Ⅰ（アジア）	4	2	
	○		世界地誌Ⅱ（アメリカ・大洋州）	4	3	
	○		世界地誌Ⅲ（欧・アフリカ）	4	3	
○			地誌学特講	2	2	
	○		地図学Ⅱ	4	3	
		○	人文地理学特講	2	2	
		○	自然地理学特講	2	2	
		○	地理特講（人文地理学演習）	2	3	
		○	地理特講（自然地理学演習）	2	3	
		○	地理特講（地誌学特講）	2	2	
		○	地理特講（地図学演習）	2	2	
	○		地図学Ⅰ	4	3	
	○		地理学特講	4	3	
		○	史学概論	4	3	
		○	日本史概説	4	3	
		○	東洋史概説	4	3	
		○	西洋史概説	4	3	
		○	経済原論	4	3	
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（文学部地理学科）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、 科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、 学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	8	4	※変更なし	-	-	-	-
	○		人文地理学概論	4	1	<p>科目を廃止する履修状況により、卒業所要単位への算入方法を変更する</p> <p>①卒業判定時に、必修科目の修得単位数が12単位未満の場合 2単位を必修科目に算入し、残りの2単位を選択必修科目（人文分野）に算入する（※4） また、選択必修科目の人文分野の卒業要件（8単位以上修得）の判定においては、4単位修得したものとする</p> <p>②卒業判定時に、必修科目の修得単位数が12単位修得済の場合 4単位を選択必修科目（人文分野）に算入する</p>	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける</p> <p>①2015年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする（「人文地理学概論」4単位を修得したものとす） ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ※卒業判定時の扱いについては、左記のとおり取扱う。</p> <p>②経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得単位は無効とする（卒業に有効な単位とならない）	

		○ 地理学概論	4	3	科目を廃止する履修状況により、卒業所要単位への算入方法を変更する	<p>①卒業判定時に、必修科目の修得単位数が12単位未満の場合 2単位を必修科目に算入し、残りの2単位を選択必修科目（自然分野）に算入する（※4） また、選択必修科目の自然分野の卒業要件（8単位以上修得）の判定においては、4単位修得したものとする</p> <p>②卒業判定時に、必修科目の修得単位数が12単位修得済の場合 4単位を選択必修科目（自然分野）に算入する</p>	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限り）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける</p> <p>①2015年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする（「地理学概論」4単位を修得したものとする） ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ※卒業判定時の扱いについては、左記のとおり取扱う</p> <p>②経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、以下のとおりとする 1 設題以上のレポートを合格している場合は、2015年4月1日付で「自然地理学概論（1）」のレポートに合格しているものと読替える 単位修得試験に合格している場合は、2015年4月1日付で「自然地理学概論（1）」の単位修得試験に合格しているものと読替える その他の学習履歴を無効にする</p>	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得単位は無効とする（卒業に有効な単位とならない）
○		地理調査法（人文編）	4	2	履修学年を1年に引下る	※変更なし	※変更なし	1年から履修できる	-
○		地理調査法（自然編）	4	2	履修学年を1年に引下る	※変更なし	※変更なし	1年から履修できる	-
○		現地研究	1×2	3	「現地研究（人文）」 「現地研究（自然）」 （各1単位）に名称変更する	変更なし （「現地研究」を修得したものとする）	<p>「現地研究（人文）」又は「現地研究（自然）」を履修する ※人文・自然を各1回合計2単位修得することを要する（従来どおり） ※以下のいずれかにより、現地研究の卒業要件を充足したものとす</p> <p>①「現地研究」1単位＋「現地研究（人文）」1単位 ②「現地研究」1単位＋「現地研究（自然）」1単位</p>	「現地研究（人文）」 「現地研究（自然）」を履修する	「現地研究（人文）」 「現地研究（自然）」は、合わせて年間2回まで受講できる
○		人文地理学演習	2	3	2単位を超えて修得した場合は、1回2単位まで選択必修科目とする	※変更なし	※該当なし	「人文地理学演習」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○		自然地理学演習	2	3	2単位を超えて修得した場合は、1回2単位まで選択必修科目とする	※変更なし	※該当なし	「自然地理学演習」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、 科目構成単位を修得した 場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、 学習未着手（※2） の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			地図学演習	2	3	科目を廃止する	①地図学演習（2単位）のみ修得した場合 卒業判定時に、必修科目の修得単位数が12単位未満の場合は必修科目に算入し、12単位の場合は選択科目に算入する（※4）	※該当なし	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得単位は無効とする（卒業に有効な単位とならない）
		○	地理特講 (地図学演習)	2	3	科目を廃止する 履修状況により、卒業所要単位への算入方法を変更する	②地図学演習（2単位）と地理特講（地図学演習）（2単位）を修得した場合 卒業判定時に、必修科目の修得単位数が12単位未満の場合は地理特講（地図学演習）（2単位）を必修科目に算入し、地図学演習（2単位）を選択科目に算入する。（※4） 12単位の場合は2科目とも選択科目に算入する。	※該当なし	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得単位は無効とする（卒業に有効な単位とならない）
	○		地学概論	4	2	※変更なし	-	-	-	-
	○		自然地理学 (地形)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○		自然地理学 (生物・土壌)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○		自然地理学 (気候)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○		自然地理学 (海洋・陸水)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○		経済地理学	4	3	※変更なし	-	-	-	-

○	人文地理学 (都市)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
○	人文地理学 (農業)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
○	人文地理学特講 (地域・産業・生活)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
○	文化地理学	4	3	※変更なし	-	-	-	-
○	地誌学通論	4	3	「地誌学概論」に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する (「地誌学通論」を選択必修科目で修得したものと する)	「地誌学概論」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「地誌学概論」(選択必修科目)を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	日本地誌Ⅰ (自然編)	4	2	「日本地誌(1)(自然編)」に名称変更する	変更なし (「日本地誌Ⅰ(自然編)」を修得したものと する)	「日本地誌(1)(自然編)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「日本地誌(1)(自然編)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	日本地誌Ⅱ (人文編)	4	2	「日本地誌(2)(人文編)」に名称変更する	変更なし (「日本地誌Ⅱ(人文編)」を修得したものと する)	「日本地誌(2)(人文編)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「日本地誌(2)(人文編)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	世界地誌Ⅰ (アジア)	4	2	「世界地誌(1)(アジア)」に名称変更する 履修学年を3年に引上る	変更なし (「世界地誌Ⅰ(アジア)」を修得したものと する)	「世界地誌(1)(アジア)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる 2年生であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる	「世界地誌(1)(アジア)」を履修する 3年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、復籍・再入学以降、3年から履修できる
○	世界地誌Ⅱ (アメリカ・大洋州)	4	3	「世界地誌(2)(アメリカ・大洋州)」に名称変更する	変更なし (「世界地誌Ⅱ(アメリカ・大洋州)」を修得したものと する)	「世界地誌(2)(アメリカ・大洋州)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「世界地誌(2)(アメリカ・大洋州)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	世界地誌Ⅲ (欧・アフリカ)	4	3	「世界地誌(3)(欧・アフリカ)」に名称変更する	変更なし (「世界地誌Ⅲ(欧・アフリカ)」を修得したものと する)	「世界地誌(3)(欧・アフリカ)」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「世界地誌(3)(欧・アフリカ)」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、 科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			地誌学特講	2	2	選択必修科目に区分変更する	①地誌学特講（2単位）のみ修得した場合 選択必修科目に変更する。ただし、卒業判定時に必修科目の修得単位数が12単位未満の場合は必修科目に算入する（※4）	※該当なし	選択必修科目として履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	地理特講（地誌学特講）	2	2	履修状況により、卒業所要単位への算入方法を変更する	②地誌学特講（2単位）と地理特講（地誌学特講）（2単位）を修得した場合 地誌学特講（2単位）を選択必修科目に変更する（選択必修科目で修得したものとする）。ただし、卒業判定時に必修科目の修得単位数が12単位未満の場合は地理特講（地誌学特講）（2単位）を必修科目に算入する（※4）	※該当なし	※変更なし	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	地図学Ⅱ	4	3	科目を廃止する	変更なし 〔「地図学」〕（地誌・その他の分野）を修得したものとする）	2013年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2015年3月31日まで）を設ける ①2015年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする（〔「地図学Ⅱ」〕4単位を修得したものとする） ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得単位は無効とする（卒業に有効な単位とならない）
		○	人文地理学特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-

	○	自然地理学特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	地理特講 (人文地理学演習)	2	3	卒業所要単位への算入の条件を「人文地理学演習」を4単位を超えて修得した場合に変更する	「人文地理学演習」(選択必修科目)を修得したものととする	※該当なし	「人文地理学演習」を4単位を超えて修得した場合に卒業所要単位に算入する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	地理特講 (自然地理学演習)	2	3	卒業所要単位への算入の条件を「自然地理学演習」を4単位を超えて修得した場合に変更する	「自然地理学演習」(選択必修科目)を修得したものととする	※該当なし	「自然地理学演習」を4単位を超えて修得した場合に卒業所要単位に算入する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
	○	地図学 I	4	3	科目を廃止する	変更なし (「地図学 I」を修得したものと) ただし、選択必修科目(地誌・その他の分野)として取扱う	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、《2年間の経過措置》(2015年3月31日まで)を設ける ①2015年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする(「地図学 I」4単位を修得したものと) ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得単位は無効とする(卒業に有効な単位とならない)
	○	地理学特講	4	3	科目を廃止する	変更なし (「地理学特講」を修得したものと) ただし、選択必修科目(地誌・その他の分野)として取扱う	2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、《2年間の経過措置》(2015年3月31日まで)を設ける ①2015年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする(「地理学特講」4単位を修得したものと) ※この場合のレポート提出は、2014年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得単位は無効とする(卒業に有効な単位とならない)
	○	史学概論	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○	日本史概説	4	3	※変更なし	-	-	-	-

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、 科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、 学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	東洋史概説	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	西洋史概説	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	経済原論	4	3	2単位科目（「社会経済学A」「社会経済学B」）に変更する	変更なし （「経済原論」を修得したものとする）	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「社会経済学B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「社会経済学A」に読替える</p> <p>●レポートの読替え 「経済原論」の設題第1回の提出・合格 →「社会経済学A」の設題第1回の提出・合格</p> <p>●単位修得試験の読替え 「経済原論」の合格 →「社会経済学A」の合格</p> <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経済原論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「社会経済学A」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経済原論」4単位を修得したものとする） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「社会経済学A」「社会経済学B」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	情報科学実習	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	※他学部・他学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-

- ※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として扱いません。
- ※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）がないことをいいます。なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されていないことに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として扱いません。
- ※注3 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません（従来どおり）。
- ※注4 卒業するためには地理調査法（人文編）、地理調査法（自然編）、現地研究（人文）、現地研究（自然）、人文地理学演習、自然地理学演習の6科目は修得する必要があります。（人文地理学概論（1）、自然地理学概論（1）の単位数分を上限として算入することが可能です。）

2. その他

項目	変更内容等
科目の新設①	2013年4月から、以下の科目を新設する 「測量学及び測量実習（1）」「測量学及び測量実習（2）」 「写真・読図演習（1）」「写真・読図演習（2）」 「地理情報システム（GIS）（1）」「地理情報システム（GIS）（2）」 「地図学」「人文地理学概論（1）」「人文地理学概論（2）」「自然地理学概論（1）」「自然地理学概論（2）」 ※2013年3月31日以前に、「地図学Ⅰ」・「地図学Ⅱ」のいずれか、または両方とも単位修得した場合、「地図学」の新規履修はできない。
科目の新設② （読替え科目）	2013年4月から、以下の科目を新設する 「地域特講（現地研究・人文）」 ※「現地研究（人文）」を1単位を超えて修得した場合、卒業所要単位として算入する 「地域特講（現地研究・自然）」 ※「現地研究（自然）」を1単位を超えて修得した場合、卒業所要単位として算入する
専門教育科目の卒業要件の変更	2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する） <変更前> 必修 8単位 スクーリング必修 10単位 選択必修 36単位 （「人文」「自然」「地誌・その他」の各分野から2科目以上） 選択必修（36単位超過分）+ 選択 20単位 卒業論文 8単位 <変更後> 必修 12単位 スクーリング必修 6単位 選択必修 36単位以上 （「人文」「自然」の各分野から各8単位以上、「地誌・その他」の分野から16単位以上） 選択必修（超過分）+ 選択 12単位以上 卒業論文 8単位

⑦経済学部経済学科

《2013年4月から》

選択必修 (24単位以上)	}	82単位
選択 (卒業論文を含む)		
合計		82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
		○	卒業論文	6	4	
	○		社会経済学A	2	1	24単位以上 必修
	○		社会経済学B	2	1	
	○		経済学入門A	2	1	
	○		経済学入門B	2	1	
	○		統計学A	2	1	
	○		統計学B	2	1	
	○		経済史A	2	1	
	○		経済史B	2	1	
	○		簿記Ⅰ	2	1	
	○		簿記Ⅱ	2	1	
	○		ミクロ経済学A	2	2	
	○		ミクロ経済学B	2	2	
	○		マクロ経済学A	2	2	
	○		マクロ経済学B	2	2	
	○		国際経済論A	2	2	
	○		国際経済論B	2	2	
	○		環境経済論A	2	2	
	○		環境経済論B	2	2	
	○		財政学A	2	2	
	○		財政学B	2	2	
	○		金融論A	2	2	
	○		金融論B	2	2	
	○		経済政策論A	2	3	
	○		経済政策論B	2	3	
	○		外国語経済学	2	3	
	○		農業論	4	3	2018年3月で廃止
	○		経済学史	4	3	
	○		社会政策	4	3	
	○		工業論	4	3	
	○		経営学総論Ⅰ	2	1	
	○		経営学総論Ⅱ	2	1	
	○		会計学入門Ⅰ	2	2	
	○		会計学入門Ⅱ	2	2	
	○		簿記Ⅲ	2	2	
	○		簿記Ⅳ	2	2	
	○		マーケティング論Ⅰ	2	2	
	○		マーケティング論Ⅱ	2	2	
	○		日本経済論A	2	3	
	○		日本経済論B	2	3	
	○		ビジネス英語A	2	3	
	○		ビジネス英語B	2	3	
	○		現代ファイナンスA	2	3	
	○		現代ファイナンスB	2	3	
	○		財務会計Ⅰ	2	3	
	○		財務会計Ⅱ	2	3	
	○		原価計算論Ⅰ	2	3	
	○		原価計算論Ⅱ	2	3	
	○		管理会計論Ⅰ	2	3	
	○		管理会計論Ⅱ	2	3	
	○		国際金融論Ⅰ	2	3	
	○		国際金融論Ⅱ	2	3	
	○		憲法	4	3	
	○		民法一部 (総則・物権法)	4	3	
	○		民法二部 (債権法)	4	3	
	○		商法総則・商行為法	4	3	
	○		会社法	4	3	
	○		手形法・小切手法	4	3	
	○		労働法	4	3	
	○		社会経済思想史	4	3	
	○		経済地理	4	3	
	○		経済学特講	2	2	8単位まで履修可
	○		経営学特講	2	2	8単位まで履修可
	○		演習	2	3	4単位まで履修可
	○		総合特講	2	1	16単位まで履修可
	○		コンピュータ入門	2	2	2単位まで履修可
	○		総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
	○		スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
	○		(他学部・他学科公開科目)	2	2	16単位まで履修可

※2013年3月末で廃止：経済学基礎理論、外国語経済学(スクーリング必修科目)、経済学演習(スクーリング必修科目)
 ※2018年3月末で廃止：外国語経済学(選択必修科目)、農業論、経済学史、社会政策、工業論

《2013年3月まで》

選択必修（8科目30単位以上）

スクーリング必修（8単位）

選択（スクーリング選択を含む）

卒業論文

合計

76単位

6単位

82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	6	4	
○			経済学基礎理論	2×2	2	
○			外国語経済学	2	3	
○			経済学演習	2	3	
	○		経済原論	4	1	
	○		統計学	4	3	
	○		経済史	4	2	
		○	簿記Ⅰ	2	3	
		○	簿記Ⅱ	2	3	
		○	現代経済学	4	3	
	○		財政学	4	3	
	○		金融論	4	3	
	○		経済政策	4	2	
		○	外国語経済学	2	3	
		○	農業論	4	3	
		○	経済学史	4	3	
		○	社会政策	4	3	
		○	工業論	4	3	
		○	経営学	4	3	
		○	商業論	4	3	
		○	日本経済史	4	3	
		○	会計学	4	3	
		○	管理会計論	4	3	
		○	国際金融論	4	3	
		○	憲法	4	2	
		○	民法一部（総則・物権法）	4	3	
		○	民法二部（債権法）	4	3	
		○	商法一部（総則・商行為）	4	3	
		○	商法二部（会社法）	4	3	
		○	商法三部（手形法・小切手法）	4	3	
		○	労働法	4	3	
		○	社会思想史	4	2	
		○	経済地理学	4	3	
		○	経済学特講	2	2	8単位まで履修可
		○	経営学特講	2	2	8単位まで履修可
		○	経済学演習	2	3	2単位まで履修可
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（経済学部経済学科）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	6	4	選択科目に変更する	選択科目に変更する ※修得済単位は選択科目として有効 ただし、2013年9月以前の卒業においては単位修得することを要する（従来どおり） ※2014年3月以降の卒業においては、単位修得不要（この場合、専門教育科目を82単位以上修得することを要する）	同左	同左	-
○			経済学基礎理論	2×2	2	科目を廃止する	変更なし 〔「経済学基礎理論」(スクーリング必修科目・4単位又は2単位)を修得したものとす〕 ただし、卒業判定時は、修得した全ての単位を選択必修科目に算入する	※該当なし	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得した全ての単位を無効にする スクーリング単位にも算入しない

○	外国語経済学	2	3	科目を廃止する	<p>①2013年3月31日以前に、2単位修得した場合 「外国語経済学」(スクーリング必修科目・2単位)を修得したものとする(従来どおり) ただし、卒業判定時に、選択必修科目に算入する</p> <p>②2013年3月31日以前に、4単位修得した場合 「外国語経済学」(スクーリング必修科目・2単位)及び「外国語経済学」(選択必修科目・2単位)を修得したものとする(従来どおり) ただし、卒業判定時に、修得した全ての単位を選択必修科目に算入する</p>	※該当なし	新規履修はできない	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合、以下のとおりとする</p> <p>①離籍(除籍又は退学)前に2単位修得した場合 復籍・再入学以降、修得した2単位を無効にする(スクーリング単位にも算入しない)</p> <p>②離籍(除籍又は退学)前に4単位修得した場合 復籍・再入学以降、スクーリング必修科目2単位分を無効とし(スクーリング単位にも算入しない)、残り2単位分を「外国語経済学」(選択必修科目・2単位)を履修したものとする ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、残り2単位分も無効にする</p>
---	--------	---	---	---------	---	-------	-----------	---

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必修区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必修	選択								
○			経済学演習	2	3	科目を廃止する	<p>①2013年3月31日以前に、2単位修得した場合 「経済学演習」（スクーリング必修科目・2単位）を修得したものとする（従来どおり） ただし、卒業判定時に、選択必修科目に算入する</p> <p>②2013年3月31日以前に、4単位修得した場合 「経済学演習」（スクーリング必修科目・2単位）及び「経済学演習」（選択科目・2単位）を修得したものとする（従来どおり） ただし、卒業判定時に、スクーリング必修科目の2単位分を選択必修科目に算入する</p>	※該当なし	新規履修はできない	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合、以下のとおりとする</p> <p>①離籍（除籍又は退学）前に2単位修得した場合 復籍・再入学以降、修得した2単位を無効にする（スクーリング単位にも算入しない）</p> <p>②離籍（除籍又は退学）前に4単位修得した場合 復籍・再入学以降、スクーリング必修科目の2単位分を無効とし（スクーリング単位にも算入しない）、残り2単位分を「経済学演習」（選択科目・2単位）を履修したものとする</p>

○	経済原論	4	1	2単位科目 〔社会経済学A〕〔社会経済学B〕に名称変更する	変更なし 〔経済原論〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「社会経済学B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「社会経済学A」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「経済原論」の設題第1回の提出・合格 →「社会経済学A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経済原論」の合格 →「社会経済学A」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経済原論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「社会経済学A」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経済原論」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	〔社会経済学A〕〔社会経済学B〕を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	統計学	4	3	2単位科目 〔統計学A〕〔統計学B〕に名称変更する履修学年を1年に引下る	変更なし 〔統計学〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「統計学B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「統計学A」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「統計学」の設題第1回の提出・合格 →「統計学A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「統計学」の合格 →「統計学A」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「統計学」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「統計学A」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「統計学」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	〔統計学A〕〔統計学B〕を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
	○		経済史	4	2	2単位科目 〔経済史A〕〔経済史B〕に名称変更する履修学年を1年に引下る	変更なし 〔経済史〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「経済史B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経済史A」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「経済史」の設題第1回の提出・合格 →「経済史A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経済史」の合格 →「経済史A」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経済史」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「経済史A」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経済史」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	経済史A」「経済史B」を履修する1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	簿記Ⅰ	2	3	選択必修科目に区分変更する履修学年を1年に引下る	選択必修科目に変更する (選択必修科目で修得したものとす)	選択必修科目に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	選択必修科目として履修する 1年から履修できる	-
		○	簿記Ⅱ	2	3	選択必修科目に区分変更する履修学年を1年に引下る	選択必修科目に変更する (選択必修科目で修得したものとす)	選択必修科目に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	選択必修科目として履修する 1年から履修できる	-

						<p>2単位科目 〔マイクロ経済学A〕 〔マイクロ経済学B〕 に名称変更する 選択必修科目に区分 変更する 履修学年を2年に引 下げる メディアスクーリン グのみで開講する (通信学習は2012年度 で廃止する(2年間 の経過措置あり))</p>	<p>名称は変更しない 選択必修科目に変更 する (「現代経済学」を選 択必修科目で修得し たものとする)</p>	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートにつ いては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設 題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、 以下のとおりとする《2年間の経過措置》</p> <p>①スクーリングで2単位修得済の場合 引き続き、「現代経済学」(選択必修科目)を2単 位修得したものとする ただし、経過措置期間終了日(2015年3月31日) までに②又は③の方法で残り2単位修得しなかつた 場合、2015年4月1日付で「マイクロ経済学B」(選択 必修科目)2単位修得と読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分 について、スクーリングで履修する場合 「マイクロ経済学A」又は「マイクロ経済学B」を履 修する この方法で2単位修得した場合、修得済の2単位 と合計して旧カリキュラム科目(現代経済学・選択 必修科目)4単位修得と読替える(その際、新カリ キュラムの学習履歴は消えるが、その後、「マイクロ経 済学A」又は「マイクロ経済学B」の再度の履修はで きない)</p> <p>③スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分 について、通信学習で履修途中の場合 「現代経済学」を履修する(使用する設題・受験 する単位修得試験問題は2単位分とする) この方法で2単位修得した場合、修得済の2単位 と合計して旧カリキュラム科目(現代経済学・選択 必修科目)4単位修得とする(その後、「マイクロ経 済学A」又は「マイクロ経済学B」の再度の履修はでき ない)</p> <p>④通信学習でのみ履修途中の場合 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験 日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は 有効(「現代経済学」(選択必修科目・4単位)を修 得したものとする) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4 単位修得しなかつた場合は、学習履歴を無効にする</p>	<p>〔マイクロ経済学A〕 〔マイクロ経済学B〕 (選択必修科目)を履 修する 2年から履修できる メディアスクーリン グで履修する(通信学 習では履修できない)</p>	<p>2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う</p>
○	現代経済学	4	3							

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
	○		財 政 学	4	3	2単位科目（「財政学A」「財政学B」）に名称変更する 履修学年を2年に引下る	変更なし （「財政学」を修得したものとする）	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「財政学B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「財政学A」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「財政学」の設題第1回の提出・合格 →「財政学A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「財政学」の合格 →「財政学A」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「財政学」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「財政学A」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「財政学」4単位を修得したものとする） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「財政学A」「財政学B」を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

○	金融論	4	3	2単位科目（「金融論A」「金融論B」）に名称変更する 履修学年を2年に引下る	変更なし （「金融論」を修得したものとす）	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「金融論B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「金融論A」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「金融論」の設題第1回の提出・合格 →「金融論A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「金融論」の合格 →「金融論A」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「金融論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「金融論A」の設題・問題を使用する） <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「金融論」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「金融論A」「金融論B」を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
---	-----	---	---	---	--------------------------	--	--------------------------------	--

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
	○		経済政策	4	2	2単位科目 〔経済政策論A〕〔経済政策論B〕に名称変更する 履修学年を3年に引上げる	変更なし 〔経済政策〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「経済政策論B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経済政策論A」に読替える 2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる ●レポートの読替え 「経済政策」の設題第1回の提出・合格 →「経済政策論A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経済政策」の合格 →「経済政策論A」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)まで、「経済政策」の設題・問題を使用する(経過措置期間終了日(2015年3月31日)以降は、「経済政策論A」の設題・問題を使用する)</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効(「経済政策」4単位を修得したものとす) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「経済政策論A」「経済政策論B」を履修する 3年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、復籍・再入学後は、3年から履修できる
	○		外国語経済学	2	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、2単位修得した場合は、以降も「外国語経済学」(選択必修科目・2単位)を修得したものとす	<p>2016年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、《2年間の経過措置》(2018年3月31日まで)を設ける</p> <p>①2018年3月31日までに2単位修得した場合は、有効とする(「外国語経済学」(選択必修科目・2単位)を修得したものとす) ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限り</p> <p>②経過措置期間終了日(2018年3月31日)までに2単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる(スクーリングは開講しない)</p>	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする

○	農 業 論	4	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、4単位修得した場合は、「農業論」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす	2016年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、《2年間の経過措置》(2018年3月31日まで)を設ける ①2018年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする(「農業論」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす) ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日(2018年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる(スクーリングは開講しない)	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする
○	経済学史	4	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、4単位修得した場合は、「経済学史」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす	2016年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、《2年間の経過措置》(2018年3月31日まで)を設ける ①2018年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする(「経済学史」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす) ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日(2018年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる(スクーリングは開講しない)	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする
○	社会政策	4	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、4単位修得した場合は、「社会政策」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす	2016年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限り)は、《2年間の経過措置》(2018年3月31日まで)を設ける ①2018年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする(「社会政策」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす) ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日(2018年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる(スクーリングは開講しない)	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必修区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必修	選択								
	○		工業論	4	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、4単位修得した場合は、「工業論」（選択必修科目・4単位）を修得したものとす	2016年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2018年3月31日まで）を設ける ①2018年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする（「工業論」（選択必修科目・4単位）を修得したものとする） ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日（2018年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる（スクーリングは開講しない）	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする
	○		経営学	4	3	2単位科目（「経営学総論Ⅰ」「経営学総論Ⅱ」）に名称変更する 履修学年を1年に引下る	変更なし （「経営学」を修得したものとする）	①スクーリングで2単位修得済の場合 「経営学総論Ⅱ」を修得したものと読替える ②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経営学総論Ⅰ」に読替える ●レポートの読替え 「経営学」の設題第1回の提出・合格 →「経営学総論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経営学」の合格 →「経営学総論Ⅰ」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経営学」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「経営学総論Ⅰ」の設題・問題を使用する） ③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経営学」4単位を修得したものとする） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	「経営学総論Ⅰ」「経営学総論Ⅱ」を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	日本経済史	4	3	2単位科目 （「日本経済論A」「日本経済論B」）に名称変更する	変更なし （「日本経済史」を修得したものとす）	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「日本経済論B」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「日本経済論A」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「日本経済史」の設題第1回の提出・合格 →「日本経済論A」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「日本経済史」の合格 →「日本経済論A」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「日本経済史」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「日本経済論A」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「日本経済史」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「日本経済論A」「日本経済論B」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
		○	国際金融論	4	3	2単位科目 〔国際金融論Ⅰ〕〔国際金融論Ⅱ〕に名称変更する	変更なし 〔国際金融論〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「国際金融論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「国際金融論Ⅰ」に読替える ●レポートの読替え 「国際金融論」の設題第1回の提出・合格 →「国際金融論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「国際金融論」の合格 →「国際金融論Ⅰ」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)まで、「国際金融論」の設題・問題を使用する(経過措置期間終了日(2015年3月31日)以降は、「国際金融論Ⅰ」の設題・問題を使用する)</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効(「国際金融論」4単位を修得したものとす) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「国際金融論Ⅰ」「国際金融論Ⅱ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○	憲法	4	2	履修学年を3年に引上げる	※変更なし	2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる	3年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降は、3年から履修できる
		○	民法一部 (総則・物権法)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	民法二部 (債権法)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○	商法一部 (総則・商行為)	4	3	〔商法総則・商行為法〕に名称変更する	変更なし 〔商法一部(総則・商行為)〕を修得したものとす	〔商法総則・商行為法〕に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	〔商法総則・商行為法〕を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

	○	商法二部 (会社法)	4	3	「会社法」に名称変更 する	変更なし (「商法二部(会社法)」 を修得したものとす る)	「会社法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「会社法」を履修する	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う
	○	商法三部 (手形法・小切手法)	4	3	「手形法・小切手法」 に名称変更する	変更なし (「商法三部(手形法・ 小切手法)」を修得し たものとす)	「手形法・小切手法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「手形法・小切手法」 を履修する	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う
	○	労働法	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○	社会思想史	4	2	「社会経済思想史」に 名称変更する 履修学年を3年に引 上げる	変更なし (「社会思想史」を修 得したものとす)	「社会経済思想史」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる 2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履 修できる	「社会経済思想史」を 履修する 3年から履修できる	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う ただし、復籍・再入 学以降は、3年から 履修できる
	○	経済地理学	4	3	「経済地理」に名称変 更する	変更なし (「経済地理学」を修 得したものとす)	「経済地理」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「経済地理」を履修 する	2013年4月1日以降 に復籍・再入学する 場合は、復籍・再入 学以降、左記のとおり 取扱う
	○	経済学特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	経営学特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
	○	経済学演習	2	3	「演習」に名称変更す る 4単位まで履修可能 とする	変更なし (「経済学演習」を修 得したものとす) ※2013年4月1日以降、 「経済学演習」(必修科 目・選択科目)「演習」 合わせて4単位まで履 修できる	※該当なし	「演習」を履修する	-
	○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
	○	情報科学実習	2	2	「コンピュータ入門」 に名称変更する	変更なし (「情報科学実習」を修 得したものとす)	※該当なし	「コンピュータ入門」 を履修する	-

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	※他学部・他学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-

※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として取扱いません。

※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）がないことをいいます。

なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されていないことに限ります。

※注3 復籍・再入学においては、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません（従来どおり）。

2. その他

項目	変更内容等												
<p>科目の新設</p>	<p>2013年4月から、以下の科目を新設する 「経済学入門A」「経済学入門B」 「マクロ経済学A」「マクロ経済学B」 「国際経済論A」「国際経済論B」 「環境経済論A」「環境経済論B」 「会計学入門I」「会計学入門II」 「簿記Ⅲ」「簿記Ⅳ」 「ビジネス英語A」「ビジネス英語B」 「現代ファイナンスA」「現代ファイナンスB」 「原価計算論I」「原価計算論II」 ※上記のうち、「経済学入門B」、「マクロ経済学A」、「マクロ経済学B」、「国際経済論A」、「国際経済論B」、「環境経済論B」、「ビジネス英語A」、「ビジネス英語B」、「現代ファイナンスA」、「現代ファイナンスB」は、2014年度以降に開講される予定</p>												
<p>専門教育科目の卒業要件の変更</p>	<p>2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する）</p> <p><変更前></p> <table border="0"> <tr> <td>選択必修</td> <td>8科目30単位以上</td> </tr> <tr> <td>スクーリング必修</td> <td>8単位</td> </tr> <tr> <td>選択必修（8科目30単位を超えた単位）+ 選択</td> <td>34単位以上</td> </tr> <tr> <td>卒業論文</td> <td>6単位</td> </tr> </table> <p><変更後></p> <table border="0"> <tr> <td>選択必修</td> <td>24単位以上</td> </tr> <tr> <td>選択必修（24単位を超えた単位）+ 選択（卒業論文を含む）</td> <td>58単位</td> </tr> </table>	選択必修	8科目30単位以上	スクーリング必修	8単位	選択必修（8科目30単位を超えた単位）+ 選択	34単位以上	卒業論文	6単位	選択必修	24単位以上	選択必修（24単位を超えた単位）+ 選択（卒業論文を含む）	58単位
選択必修	8科目30単位以上												
スクーリング必修	8単位												
選択必修（8科目30単位を超えた単位）+ 選択	34単位以上												
卒業論文	6単位												
選択必修	24単位以上												
選択必修（24単位を超えた単位）+ 選択（卒業論文を含む）	58単位												

⑧経済学部商業学科

《2013年4月から》

選択必修 (20単位以上)	}	82単位
選択 (卒業論文を含む)		
合計		82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
		○	卒業論文	6	4	
	○		経済学入門Ⅰ	2	1	20単位以上必修
	○		経済学入門Ⅱ	2	1	
	○		簿記Ⅰ	2	1	
	○		簿記Ⅱ	2	1	
	○		経営学総論Ⅰ	2	1	
	○		経営学総論Ⅱ	2	1	
	○		経営管理論Ⅰ	2	2	
	○		経営管理論Ⅱ	2	2	
	○		会計学入門Ⅰ	2	2	
	○		会計学入門Ⅱ	2	2	
	○		経営戦略論Ⅰ	2	2	
	○		経営戦略論Ⅱ	2	2	
	○		金融論Ⅰ	2	2	
	○		金融論Ⅱ	2	2	
	○		マーケティング論Ⅰ	2	2	
	○		マーケティング論Ⅱ	2	2	
	○		簿記Ⅲ	2	2	
	○		簿記Ⅳ	2	2	
		○	外国語経営学	2	3	2018年3月で廃止
		○	経営組織論	2	3	
		○	人的資源管理論Ⅰ	2	3	
		○	人的資源管理論Ⅱ	2	3	
		○	事業創造論	2	3	
		○	財務会計論Ⅰ	2	3	
		○	財務会計論Ⅱ	2	3	
		○	原価計算論Ⅰ	2	3	
		○	原価計算論Ⅱ	2	3	
		○	管理会計論Ⅰ	2	3	
		○	管理会計論Ⅱ	2	3	
		○	監査論Ⅰ	2	3	
		○	監査論Ⅱ	2	3	
		○	税務会計Ⅰ	2	3	
		○	税務会計Ⅱ	2	3	
		○	経営分析論Ⅰ	2	3	
		○	経営分析論Ⅱ	2	3	
		○	国際金融論Ⅰ	2	3	
		○	国際金融論Ⅱ	2	3	
		○	日本経営論	2	3	
		○	ファイナンス論Ⅰ	2	3	
		○	ファイナンス論Ⅱ	2	3	
		○	消費者行動論	2	3	
		○	広告論	2	3	
		○	現代経済学Ⅰ	2	3	
		○	現代経済学Ⅱ	2	3	
		○	社会経済学Ⅰ	2	3	
		○	社会経済学Ⅱ	2	3	
		○	経済史Ⅰ	2	3	
		○	経済史Ⅱ	2	3	
		○	統計学Ⅰ	2	3	
		○	統計学Ⅱ	2	3	
		○	財政学Ⅰ	2	3	
		○	財政学Ⅱ	2	3	
		○	マクロ経済学Ⅰ	2	3	
		○	マクロ経済学Ⅱ	2	3	
		○	国際経済論Ⅰ	2	3	
		○	国際経済論Ⅱ	2	3	
		○	環境経済論Ⅰ	2	3	
		○	環境経済論Ⅱ	2	3	
		○	経済政策論Ⅰ	2	3	
		○	経済政策論Ⅱ	2	3	
		○	日本経済論Ⅰ	2	3	
		○	日本経済論Ⅱ	2	3	
		○	経済学史	4	3	2018年3月で廃止
		○	工業論	4	3	
		○	社会政策	4	3	
		○	憲法	4	3	
		○	民法一部 (総則・物権法)	4	3	
		○	民法二部 (債権法)	4	3	
		○	商法総則・商行為法	4	3	
		○	会社法	4	3	
		○	手形法・小切手法	4	3	
		○	労働法	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	経済地理	4	3	
		○	経済学特講	2	2	8単位まで履修可
		○	経営学特講	2	2	16単位まで履修可
		○	演習	2	3	4単位まで履修可
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	(他学部・他学科公開科目)	2	2	16単位まで履修可

※2013年3月末で廃止：経済学基礎理論、外国語経営学（スクーリング必修科目）、経営学演習（スクーリング必修科目）

※2018年3月末で廃止：外国語経営学（選択必修科目）、経済学史、工業論、社会政策

《2013年3月まで》

選択必修（4科目16単位以上）

スクーリング必修（8単位）

76単位

選択（スクーリング選択含む）

卒業論文

6単位

合計

82単位

必修	選必	選択	授業科目	構成単位	履修学年	備考
○			卒業論文	6	4	
○			経済学基礎理論	2×2	2	
○			外国語経営学	2	3	
○			経営学演習	2	3	
		○	簿記Ⅰ	2	2	
		○	簿記Ⅱ	2	2	
		○	経営学	4	2	
		○	経営管理論	4	3	
		○	金融論	4	3	
		○	商業論	4	3	
		○	外国語経営学	2	3	
		○	人的資源管理	4	2	
		○	会計学	4	3	
		○	原価計算論	4	3	
		○	管理会計論	4	3	
		○	監査論	4	3	
		○	税務会計	4	3	
		○	経営分析論	4	3	
		○	国際金融論	4	3	
		○	現代経済学	4	1	
		○	経済史	4	3	
		○	統計学	4	3	
		○	財政学	4	3	
		○	経済政策	4	3	
		○	日本経済史	4	3	
		○	経済学史	4	3	
		○	工業論	4	3	
		○	社会政策	4	3	
		○	憲法	4	2	
		○	民法一部（総則・物権法）	4	3	
		○	民法二部（債権法）	4	3	
		○	商法一部（総則・商行為）	4	3	
		○	商法二部（会社法）	4	3	
		○	商法三部（手形法・小切手法）	4	3	
		○	労働法	4	3	
		○	社会思想史	4	3	
		○	経済学特講	2	2	8単位まで履修可
		○	経営学特講	2	2	8単位まで履修可
		○	経営学演習	2	3	2単位まで履修可
		○	総合特講	2	1	16単位まで履修可
		○	情報科学実習	2	2	2単位まで履修可
		○	総合外国語特講	2	2	2単位まで履修可
		○	スポーツ特講	2	2	2単位まで履修可
		○	（他学部・他学科公開科目）	2	2	16単位まで履修可

カリキュラム変更に伴う科目読替え・経過措置（経済学部商業学科）

1. 科目の読替え・経過措置に関すること

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
○			卒業論文	6	4	選択科目に変更する 選択科目に変更する ※修得済単位は選択科目として有効 ただし、2013年9月以前の卒業においては単位修得することを要する（従来どおり） ※2014年3月以降の卒業においては、単位修得不要（この場合、専門教育科目を82単位以上修得することを要する）		同左	同左	—
○			経済学基礎理論	2×2	2	変更なし （「経済学基礎理論」（スクーリング必修科目・4単位又は2単位）を修得したものとす） ただし、卒業判定時は、修得した全ての単位を選択必修科目に算入する		※該当なし	新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得した全ての単位を無効にする（スクーリング単位にも算入しない）

○	外国語経営学	2	3	科目を廃止する	<p>①2013年3月31日以前に、2単位修得した場合 「外国語経営学」(スクーリング必修科目・2単位)を修得したものとする(従来どおり) ただし、卒業判定時に、選択必修科目に算入する</p> <p>②2013年3月31日以前に、4単位修得した場合 「外国語経営学」(スクーリング必修科目・2単位)及び「外国語経営学」(選択必修科目・2単位)を修得したものとする(従来どおり) ただし、卒業判定時に、修得した全ての単位を選択必修科目に算入する</p>	※該当なし	新規履修はできない	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合、以下のとおりとする</p> <p>①離籍(除籍又は退学)前に2単位修得した場合 復籍・再入学以降、修得した2単位を無効にする(スクーリング単位にも算入しない)</p> <p>②離籍(除籍又は退学)前に4単位修得した場合 復籍・再入学以降、スクーリング必修科目2単位分を無効とし(スクーリング単位にも算入しない)、残り2単位分を「外国語経営学」(選択必修科目・2単位)を履修したものとする ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、残り2単位分も無効にする</p>
---	--------	---	---	---------	---	-------	-----------	---

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
○			経営学演習	2	3	科目を廃止する	<p>①2013年3月31日以前に、2単位修得した場合</p> <p>「経営学演習」(スクーリング必修科目・2単位)を修得したものとする(従来どおり)ただし、卒業判定時に、選択必修科目に算入する</p> <p>②2013年3月31日以前に、4単位修得した場合</p> <p>「経営学演習」(スクーリング必修科目・2単位)及び「経営学演習」(選択科目・2単位)を修得したものとする(従来どおり)ただし、卒業判定時に、スクーリング必修科目の2単位分を選択必修科目に算入する</p>	※該当なし	新規履修はできない	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合、以下のとおりとする</p> <p>①離籍(除籍又は退学)前に2単位修得した場合</p> <p>復籍・再入学以降、修得した2単位を無効にする(スクーリング単位にも算入しない)</p> <p>②離籍(除籍又は退学)前に4単位修得した場合</p> <p>復籍・再入学以降、スクーリング必修科目の2単位分を無効とし(スクーリング単位にも算入しない)、残り2単位分を「経営学演習」(選択科目・2単位)を履修したものとする</p>
	○		簿記 I	2	2	履修学年を1年に引下る	※変更なし	※変更なし	1年から履修できる	
	○		簿記 II	2	2	履修学年を1年に引下る	※変更なし	※変更なし	1年から履修できる	

○	経営学	4	2	2単位科目 〔経営学総論Ⅰ〕〔経営学総論Ⅱ〕に名称変更する 履修学年を1年に引下る	変更なし 〔経営学〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「経営学総論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経営学総論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「経営学」の設題第1回の提出・合格 →「経営学総論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経営学」の合格 →「経営学総論Ⅰ」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経営学」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「経営学総論Ⅰ」の設題・問題を使用する） <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経営学」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「経営学総論Ⅰ」「経営学総論Ⅱ」を履修する 1年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
○	経営管理論	4	3	2単位科目 〔経営管理論Ⅰ〕〔経営管理論Ⅱ〕に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する 〔経営管理論〕を選択必修科目で修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「経営管理論Ⅱ」（選択必修科目）を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経営管理論Ⅰ」（選択必修科目）に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「経営管理論」の設題第1回の提出・合格 →「経営管理論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経営管理論」の合格 →「経営管理論Ⅰ」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経営管理論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「経営管理論Ⅰ」の設題・問題を使用する） <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経営管理論」（選択必修科目）4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「経営管理論Ⅰ」「経営管理論Ⅱ」（選択必修科目）を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	金融論	4	3	2単位科目 〔金融論Ⅰ〕〔金融論Ⅱ〕に名称変更する 選択必修科目に区分変更する 履修学年を2年に引下る	名称は変更しない 選択必修科目に変更する 〔金融論〕を選択必修科目で修得したものと とする)	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「金融論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「金融論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「金融論」の設題第1回の提出・合格 →「金融論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「金融論」の合格 →「金融論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「金融論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「金融論Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「金融論」4単位を修得したものと する） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「金融論Ⅰ」「金融論Ⅱ」（選択必修科目）を履修する 2年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

○	商	業	論	4	3	<p>2単位科目 (「マーケティング論Ⅰ」「マーケティング論Ⅱ」)に名称変更する 履修学年を2年に引下げる メディアスクーリングのみで開講する (通信学習は2012年度で廃止する(2年間の経過措置あり))</p>	<p>変更なし (「商業論」を修得したものとす)</p>	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、以下のとおりとする《2年間の経過措置》</p> <p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「商業論」(選択必修科目)を2単位修得したものとす ただし、経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに②又は③の方法で残り2単位修得しなかった場合、2015年4月1日付で「マーケティング論Ⅱ」(選択必修科目)2単位修得と読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、スクーリングで履修する場合 「マーケティング論Ⅰ」又は「マーケティング論Ⅱ」を履修する この方法で2単位修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目(商業論・選択必修科目)4単位修得と読替える(その際、新カリキュラムの履修履歴は消えるが、その後、「マーケティング論Ⅰ」又は「マーケティング論Ⅱ」の再度の履修はできない)</p> <p>③スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 「商業論」を履修する(使用する設題・受験する単位修得試験問題は2単位分とする) この方法で2単位修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目(商業論・選択必修科目)4単位修得とする(その後、「マーケティング論Ⅰ」又は「マーケティング論Ⅱ」の再度の履修はできない)</p> <p>④通信学習でのみ履修途中の場合 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効とする(「商業論」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	<p>「マーケティング論Ⅰ」「マーケティング論Ⅱ」を履修する 2年から履修できる メディアスクーリングで履修する(通信学習では履修できない)</p>	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う</p>
---	---	---	---	---	---	--	---	--	--	---

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
	○		外国語経営学	2	3	※変更なし ただし、2018年3月31日以前に、2単位修得した場合は、以降も「外国語経営学」（選択必修科目・2単位）を修得したものと する	※変更なし ただし、2018年3月31日以前に、2単位修得した場合は、以降も「外国語経営学」（選択必修科目・2単位）を修得したものと する	2016年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限り）は、《2年間の経過措置》（2018年3月31日まで）を設ける ①2018年3月31日までに2単位修得した場合は、有効とする（「外国語経営学」（選択必修科目・2単位）を修得したものと する） ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日（2018年3月31日）までに2単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる（スクーリングは開講しない）	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする
	○		人的資源管理	4	2	2単位科目 （「人的資源管理論Ⅰ」「人的資源管理論Ⅱ」）に名称変更する 履修学年を3年に引 上げる	変更なし （「人的資源管理」を修得したものと する）	①スクーリングで2単位修得済の場合 「人的資源管理論Ⅱ」を修得したものと読替える ②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「人的資源管理論Ⅰ」に読替える 2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる ●レポートの読替え 「人的資源管理」の設題第1回の提出・合格 →「人的資源管理論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「人的資源管理」の合格 →「人的資源管理論Ⅰ」の合格 ※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「人的資源管理」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「人的資源管理論Ⅰ」の設題・問題を使用する） ③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「人的資源管理」4単位を修得したものと する） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする	「人的資源管理論Ⅰ」「人的資源管理論Ⅱ」を履修する 3年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、復籍・再入学以降、3年から履修できる

			○ 会 計 学	4	3	2単位科目 〔財務会計論Ⅰ〕〔財務会計論Ⅱ〕に名称変更する	変更なし 〔会計学〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「財務会計論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「財務会計論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「会計学」の設題第1回の提出・合格 →「財務会計論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「会計学」の合格 →「財務会計論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「会計学」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「財務会計論Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「会計学」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	〔財務会計論Ⅰ〕〔財務会計論Ⅱ〕を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
			○ 原 価 計 算 論	4	3	2単位科目 〔原価計算論Ⅰ〕〔原価計算論Ⅱ〕に名称変更する	変更なし 〔原価計算論〕を修得したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「原価計算論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「原価計算論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「原価計算論」の設題第1回の提出・合格 →「原価計算論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「原価計算論」の合格 →「原価計算論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「原価計算論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「原価計算論Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「原価計算論」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	〔原価計算論Ⅰ〕〔原価計算論Ⅱ〕を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	管理会計論	4	3	2単位科目 〔「管理会計論Ⅰ」「管理会計論Ⅱ」〕に名称変更する	変更なし 〔「管理会計論」を修得したものとす〕	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「管理会計論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「管理会計論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「管理会計論」の設題第1回の提出・合格 →「管理会計論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「管理会計論」の合格 →「管理会計論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「管理会計論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「管理会計論Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「管理会計論」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「管理会計論Ⅰ」「管理会計論Ⅱ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

			○ 監 査 論	4	3	2単位科目 〔監査論Ⅰ〕〔監査論Ⅱ〕に名称変更する	変更なし 〔監査論〕を修得したものとする)	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「監査論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「監査論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「監査論」の設題第1回の提出・合格 →「監査論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「監査論」の合格 →「監査論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「監査論」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「監査論Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「監査論」4単位を修得したものとする） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「監査論Ⅰ」「監査論Ⅱ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
			○ 税 務 会 計	4	3	2単位科目 〔税務会計Ⅰ〕〔税務会計Ⅱ〕に名称変更する	変更なし 〔税務会計〕を修得したものとする)	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「税務会計Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「税務会計Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「税務会計」の設題第1回の提出・合格 →「税務会計Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「税務会計」の合格 →「税務会計Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「税務会計」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「税務会計Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「税務会計」4単位を修得したものとする） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「税務会計Ⅰ」「税務会計Ⅱ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
		○	経営分析論	4	3	2単位科目 (「経営分析論Ⅰ」「経営分析論Ⅱ」)に名称変更する	変更なし (「経営分析論」を修得したものとする)	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「経営分析論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経営分析論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「経営分析論」の設題第1回の提出・合格 →「経営分析論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経営分析論」の合格 →「経営分析論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)まで、「経営分析論」の設題・問題を使用する(経過措置期間終了日(2015年3月31日)以降は、「経営分析論Ⅰ」の設題・問題を使用する)</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効(「経営分析論」4単位を修得したものとする) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「経営分析論Ⅰ」「経営分析論Ⅱ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

						<p>○ 国際金融論 4 3</p> <p>2単位科目 (国際金融論Ⅰ)「国際金融論Ⅱ」に名称変更する</p>	<p>変更なし (「国際金融論」を修得したものとす)</p>	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「国際金融論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「国際金融論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「国際金融論」の設題第1回の提出・合格 →「国際金融論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「国際金融論」の合格 →「国際金融論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)まで、「国際金融論」の設題・問題を使用する(経過措置期間終了日(2015年3月31日)以降は、「国際金融論Ⅰ」の設題・問題を使用する)</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効(「国際金融論」4単位を修得したものとす) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	<p>「国際金融論Ⅰ」「国際金融論Ⅱ」を履修する</p>	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、離籍(除籍又は退学)前の履修状況に応じて、左記のとおり取扱う</p>
--	--	--	--	--	--	---	------------------------------------	---	------------------------------	---

2012年度のカリキュラム				2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い						
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
	○		現代経済学	4	1	<p>2単位科目 〔現代経済学Ⅰ〕〔現代経済学Ⅱ〕に名称変更する 選択科目に変更する 履修学年を3年に引上げる メディアスクーリングのみで開講する (通信学習は2012年度で廃止する(2年間の経過措置あり))</p>	<p>変更なし (「現代経済学」を選択必修科目で修得したものとす)</p>	<p>2013年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2013年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、以下のとおりとする《2年間の経過措置》</p> <p>①スクーリングで2単位修得済の場合 引き続き、「現代経済学」(選択必修科目)を2単位修得したものとす ただし、経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに②又は③の方法で残り2単位修得しなかった場合、2015年4月1日付で「現代経済学Ⅱ」(選択必修科目)2単位修得と読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、スクーリングで履修する場合 「現代経済学Ⅰ」又は「現代経済学Ⅱ」を履修する 1年又は2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる この方法で2単位修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目(現代経済学・選択必修科目)4単位修得と読替える(その際、新カリキュラムの学習履歴は消えるが、その後、「現代経済学Ⅰ」又は「現代経済学Ⅱ」の再度の履修はできない)</p> <p>③スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 「現代経済学」を履修する(使用する設題・受験する単位修得試験問題は2単位分とする) 1年又は2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる この方法で2単位修得した場合、修得済の2単位と合計して旧カリキュラム科目(現代経済学)4単位修得とする(その後、「現代経済学Ⅰ」又は「現代経済学Ⅱ」の再度の履修はできない)</p> <p>④通信学習でのみ履修途中の場合 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効とする(「現代経済学」(選択必修科目・4単位)を修得したものとす)1年又は2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	<p>〔現代経済学Ⅰ〕〔現代経済学Ⅱ〕(選択科目)を履修する 3年から履修できる メディアスクーリングで履修する(通信学習では履修できない)</p>	<p>2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う 復籍・再入学後は、3年から履修できる</p>

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中(※1)の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手(※2)の場合	備考(※3)
必修	選必	選択								
		○	財 政 学	4	3	2単位科目 〔「財政学Ⅰ」「財政学Ⅱ」〕に名称変更する	変更なし 〔「財政学」を修得したものとする〕	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合「財政学Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「財政学Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「財政学」の設題第1回の提出・合格 →「財政学Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「財政学」の合格 →「財政学Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)まで、「財政学」の設題・問題を使用する(経過措置期間終了日(2015年3月31日)以降は、「財政学Ⅰ」の設題・問題を使用する)</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日(2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日)までに4単位修得した場合は有効(「財政学」4単位を修得したものとする) 経過措置期間終了日(2015年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	「財政学Ⅰ」「財政学Ⅱ」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

						○ 経済政策	4	3	2単位科目 〔経済政策論Ⅰ〕〔経済政策論Ⅱ〕に名称 変更する	変更なし 〔経済政策〕を修得 したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合 「経済政策論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「経済政策論Ⅰ」に読替える 2年生であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「経済政策」の設題第1回の提出・合格 →「経済政策論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「経済政策」の合格 →「経済政策論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「経済政策」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「経済政策論Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「経済政策」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	〔経済政策論Ⅰ〕〔経済政策論Ⅱ〕を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
						○ 日本経済史	4	3	2単位科目 〔日本経済論Ⅰ〕〔日本経済論Ⅱ〕に名称 変更する	変更なし 〔日本経済史〕を修得 したものとす	<p>①スクーリングで2単位修得済の場合「日本経済論Ⅱ」を修得したものと読替える</p> <p>②スクーリングで2単位修得した後の残り2単位分について、通信学習で履修途中の場合 履修途中の学習履歴を「日本経済論Ⅰ」に読替える</p> <ul style="list-style-type: none"> ●レポートの読替え 「日本経済史」の設題第1回の提出・合格 →「日本経済論Ⅰ」の設題第1回の提出・合格 ●単位修得試験の読替え 「日本経済史」の合格 →「日本経済論Ⅰ」の合格 <p>※使用設題・問題の取扱い《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）まで、「日本経済史」の設題・問題を使用する（経過措置期間終了日（2015年3月31日）以降は、「日本経済論Ⅰ」の設題・問題を使用する）</p> <p>③通信学習でのみ履修途中の場合《2年間の経過措置》 2015年3月31日（2014年度最終の単位修得試験日・レポート提出日）までに4単位修得した場合は有効（「日本経済史」4単位を修得したものとす） 経過措置期間終了日（2015年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする</p>	〔日本経済論Ⅰ〕〔日本経済論Ⅱ〕を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 （詳細は右記参照）	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	経済学史	4	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、4単位修得した場合は、「経済学史」（選択科目・4単位）を修得したものとする	2016年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2018年3月31日まで）を設ける ①2018年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする（「経済学史」（選択科目・4単位）を修得したものとする） ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日（2018年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる（スクーリングは開講しない）	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする
		○	工業論	4	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、4単位修得した場合は、「工業論」（選択科目・4単位）を修得したものとする	2016年3月31日時点で履修途中の場合（レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出（免除を含む）がある場合に限る）は、《2年間の経過措置》（2018年3月31日まで）を設ける ①2018年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする（「工業論」（選択科目・4単位）を修得したものとする） ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日（2018年3月31日）までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる（スクーリングは開講しない）	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする

		○ 社会政策	4	3	変更なし ただし、2018年3月31日で科目を廃止する	変更なし ただし、2018年3月31日以前に、4単位修得した場合は、「社会政策」(選択科目・4単位)を修得したものとする	2016年3月31日時点で履修途中の場合(レポートについては、2016年3月のレポート提出締切日までに1設題以上の提出(免除を含む)がある場合に限る)は、《2年間の経過措置》(2018年3月31日まで)を設ける ①2018年3月31日までに4単位修得した場合は、有効とする(「社会政策」(選択科目・4単位)を修得したものとする) ※この場合のレポート提出は、2017年度の成績対象となる最終提出日(前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日)までに提出されたものに限る ②経過措置期間終了日(2018年3月31日)までに4単位修得しなかった場合は、学習履歴を無効にする 2016年4月1日以降は、通信学習のみにより履修できる(スクーリングは開講しない)	2016年4月1日以降は、新規履修はできない	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う ただし、2018年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、修得済単位を無効にする
		○ 憲法	4	2	履修学年を3年に引上げる	※変更なし	2年であっても、継続して在籍する限り、引き続き履修できる	3年から履修できる	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、3年から履修できる
		○ 民法一部(総則・物権法)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○ 民法二部(債権法)	4	3	※変更なし	-	-	-	-
	○	商法一部(総則・商行為)	4	3	「商法総則・商行為法」に名称変更する 選択科目に区分変更する	変更なし 〔「商法一部(総則・商行為)」を選択必修科目で修得したものとする〕	「商法総則・商行為法」(選択必修科目)に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「商法総則・商行為法」(選択科目)を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○ 商法二部(会社法)	4	3	「会社法」に名称変更する	変更なし 〔「商法二部(会社法)」を修得したものとする〕	「会社法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「会社法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○ 商法三部(手形法・小切手法)	4	3	「手形法・小切手法」に名称変更する	変更なし〔「商法三部(手形法・小切手法)」を修得したものとする〕	「手形法・小切手法」に変更する 学習履歴(レポート合格等)は引き継がれる	「手形法・小切手法」を履修する	2013年4月1日以降に復籍・再入学する場合は、復籍・再入学以降、左記のとおり取扱う
		○ 労働法	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○ 社会思想史	4	3	※変更なし	-	-	-	-
		○ 経済学特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-

2012年度のカリキュラム					2013年度以降（2013年4月1日以降）の取扱い					
必選区分			科目名称	構成単位	履修学年	変更内容 (詳細は右記参照)	2013年3月31日以前に、科目構成単位を修得した場合	2013年3月31日時点で、履修途中（※1）の場合	2013年3月31日時点で、学習未着手（※2）の場合	備考（※3）
必修	選必	選択								
		○	経営学特講	2	2	16単位まで履修可能とする	変更なし ただし、2013年4月1日以前に8単位を超えて修得していた単位は卒業所要単位に算入する	-	-	-
		○	経営学演習	2	3	「演習」に名称変更する 4単位まで履修可能とする	変更なし （「経営学演習」を修得したものとする） ※2013年4月1日以降、「経営学演習」（必修科目・選択科目）「演習」合わせて4単位まで履修できる	※該当なし	「演習」を履修する	-
		○	総合特講	2	1	※変更なし	-	-	-	-
		○	情報科学実習	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	総合外国語特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	スポーツ特講	2	2	※変更なし	-	-	-	-
		○	※他学部・他学科公開科目	2	2	※変更なし	-	-	-	-

※注1 「履修途中」とは、科目構成単位を充たしていないが、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）があることをいいます。なお、この場合のレポート提出は、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績対象となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されたものに限り、最終提出日後に提出された場合は、「履修途中」として取扱いしません。

※注2 「学習未着手」とは、単位修得のための有効な学習履歴（レポート1設題以上の提出（免除を含む）、スクーリングによる単位修得のいずれかに限る）がないことをいいます。

なお、この場合のレポート提出がないことは、上記に特に記載がある場合を除き、2012年度の成績となる最終提出日（前期生・後期生ともに12月又は1月の指定日）までに提出されていないことに限り、

※注3 復籍・再入学においては、上記に特に記載がある場合を除き、修得単位として評価を得られなかった履修途中科目の学習履歴は、復籍・再入学後に引き継がれません。

2. その他

項目	変更内容等												
<p>科目の新設</p>	<p>2013年4月から、以下の科目を新設する 「経済学入門Ⅰ」「経済学入門Ⅱ」 「会計学入門Ⅰ」「会計学入門Ⅱ」 「経営戦略論Ⅰ」「経営戦略論Ⅱ」 「簿記Ⅲ」「簿記Ⅳ」 「経営組織論」 「事業創造論」 「日本経営論」 「ファイナンス論Ⅰ」「ファイナンス論Ⅱ」 「消費者行動論」 「広告論」 「社会経済学Ⅰ」「社会経済学Ⅱ」 「マクロ経済学Ⅰ」「マクロ経済学Ⅱ」 「国際経済論Ⅰ」「国際経済論Ⅱ」 「環境経済論Ⅰ」「環境経済論Ⅱ」 「経済地理」※地理学科開設科目 ※上記のうち、「経済学入門Ⅱ」、「経営戦略論Ⅰ」、「経営戦略論Ⅱ」、「ファイナンス論Ⅰ」、「ファイナンス論Ⅱ」、「マクロ経済学Ⅰ」、「マクロ経済学Ⅱ」、「国際経済論Ⅰ」、「国際経済論Ⅱ」、「環境経済論Ⅱ」は、2014年度以降に開講される予定</p>												
<p>専門教育科目の卒業要件の変更</p>	<p>2013年4月から、以下のとおり変更する（2013年4月1日に在籍する全ての学生を対象に変更する）</p> <p><変更前></p> <table border="0"> <tr> <td>選択必修</td> <td>4科目16単位以上</td> </tr> <tr> <td>スクーリング必修</td> <td>8単位</td> </tr> <tr> <td>選択必修（4科目16単位を超えた単位）＋選択</td> <td>52単位以上</td> </tr> <tr> <td>卒業論文</td> <td>6単位</td> </tr> </table> <p><変更後></p> <table border="0"> <tr> <td>選択必修</td> <td>20単位以上</td> </tr> <tr> <td>選択必修（20単位を超えた単位）＋選択（卒業論文を含む）</td> <td>62単位</td> </tr> </table>	選択必修	4科目16単位以上	スクーリング必修	8単位	選択必修（4科目16単位を超えた単位）＋選択	52単位以上	卒業論文	6単位	選択必修	20単位以上	選択必修（20単位を超えた単位）＋選択（卒業論文を含む）	62単位
選択必修	4科目16単位以上												
スクーリング必修	8単位												
選択必修（4科目16単位を超えた単位）＋選択	52単位以上												
卒業論文	6単位												
選択必修	20単位以上												
選択必修（20単位を超えた単位）＋選択（卒業論文を含む）	62単位												